

平成27・28・29年度
新座市教育委員会研究委嘱

平成27年度 研究のまとめ

「心ゆたかで 笑顔あふれる 新開っ子を目指して」

～生き生きと学び合う 国語科の授業の展開～



平成28年3月

新座市立新開小学校

研究の概要

1 課題設定の理由

本校では、昨年度まで体育科の研究委嘱を進めてきたが、子ども達に今後つけたい力を話し合ったところ、以下のような課題があることが出された。

児童の実態（つけたい力）

- ・ 基本的な生活習慣
- ・ 基礎学力（主に計算）
- ・ 文章を読み取る力が弱い（正確にとらえられない）
- ・ 伝える力が弱い（言語活動）
- ・ 思考力、表現力、判断力が弱い

などがあげられた。言語活動を通して、読解力、表現力などの力を伸ばしたいということから、「心ゆたかで 笑顔あふれる 新開っ子を目指して」という研究主題に、～生き生きと学び合う 国語科の授業の展開～を副題とし、国語科の研究を進めていくことにした。

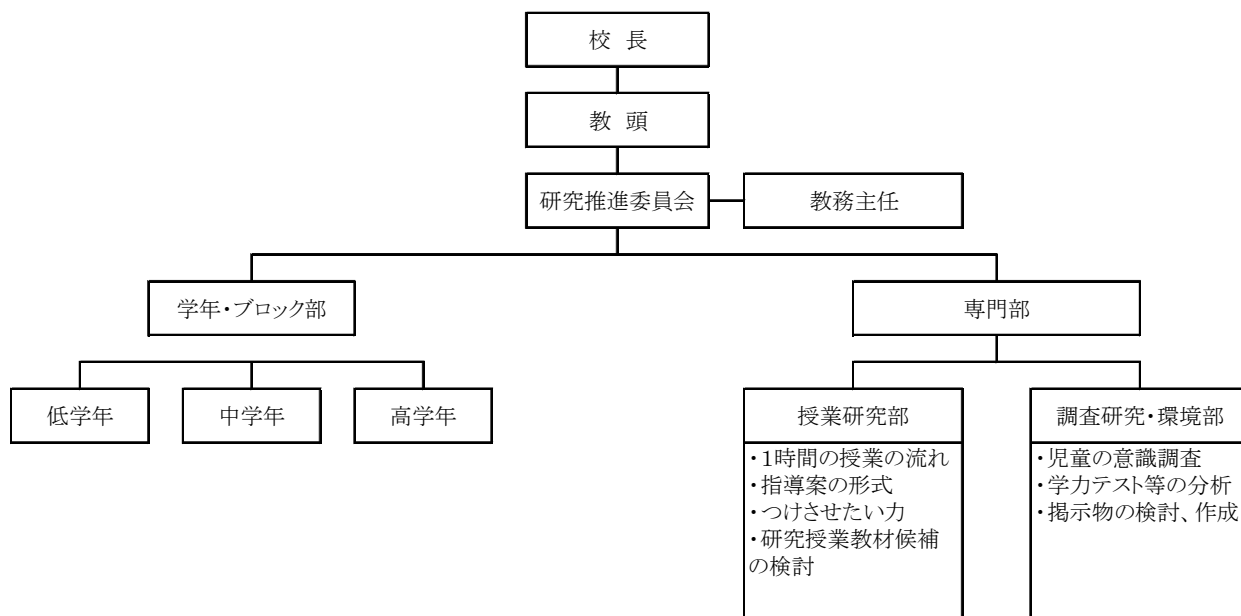
2 目指す児童像

考える力を深め、自分の考えを論理的に説明したり、表現したりできる子

3 研究仮説

言語活動を通して、自分の力で読み取る活動を重視して取り組むことで、自分の力で読み取り、自分の考えを説明したり、表現したりできる子を育てることができるであろう。

4 研究組織



5 研究経過

今年度は、国語科の授業の流れの一つである単元を貫く言語活動について、新座市教育委員会の佐久間指導主事の指導の下、研究を進めてきました。

活動は大きく分けて、以下の通りです。

- ① 講演会
 - ・新座市教育委員会 佐久間幸代指導主事
現在の国語科教育の流れについて
 - ・大和田小学校 校長 児玉裕子先生
単元を貫く言語活動を目指した教材研究、指導案検討の方法について
 - ・十文字学園女子大学 教授 富山哲也先生
アクティブ・ラーニングと国語科の指導法について

- ② 各ブロックの研究授業 単元を貫く言語活動を目指した展開
児童の実態に基づく手立ての工夫の研究

- ③ 各部会の活動 ・詳細については、別紙

- ④ その他 ・生徒指導、体育実技、教育相談・特別支援、避難救助袋体験など

(詳細な日程については別紙参照)

6 活動をふりかえって

読み取る力をつけたいという思いから始めた研究だったが、単元を貫く言語活動による教材研究に取り組んできた結果、1年目ということもありなかなか思うような結果が得られず、職員の中でも自信を深めることができなかった。1年目ということを考えれば当然な結果であるのだが、子ども達がわかった、よかったという体験を深められればというところで、富山哲也先生による講演で「アクティブ・ラーニング」の概念の捉えかたや、子ども達の主体的な活動を深める活動などを聞く中で、国語科のねらいとして「考えたことをちゃんと伝え合うこと」というシンプルな言葉で教えていただいた。言語活動を充実させること、伝え合う力をつけていくこと、児童の課題解決につながる実践研究を、来年度以降の研究の進め方についてヒントをいただくことができた。

来年度は

- ・児童の実態（学力調査の結果、意識調査等）に踏まえた活動の展開
- ・言語活動の充実
- ・多様な授業展開を図るための教材研究
- ・言語環境の整備、実践（聞き方名人、話し方名人）

など、研究を深めていきたい。

平成27年度 研究経過

4月13日(月)	全体研修①	AED研修
4月20日(月)	研究推進①	研究テーマの選定、研究推進部の進め方、組織の確認
4月27日(月)	全体研修②	指導主事 佐久間幸代先生 講演「新開小学校の校内研修について」①、研究推進①報告
5月18日(月)	研究推進②	副題の選定、組織の人数配置・仕事内容、研究授業等のブロックの人数配置
	全体研修③	研究推進②報告、組織の編成、研究授業の教材候補の選定
6月 8日(月)	全体研修④	生徒指導(児童理解)
6月22日(月)	全体研修⑤	指導主事 佐久間幸代先生 講演「新開小学校の校内研修について」②
6月26日(金)	研究推進③	研究組織編成・仕事内容の確認、教材候補の確認、夏季休業期間中の研修日程の案
7月16日(木)	研究推進④	夏季休業期間中の研修日程の確認、各ブロックの教材候補・研究授業日の候補の案
7月21日(火)	全体研修⑥	大和田小学校長 児玉裕子先生 講演「単元を貫く言語学習」
	部会	リーダーの決定、仕事の内容の確認・作業
	学年ブロック	研究授業者、プレ授業者の決定、研究授業日の希望
8月21日(金)	報告会	教育課程、生徒指導、人権教育研修会
	全体研修⑦	避難救助袋体験研修
8月24日(月)	全体研修⑧	体育実技伝達講習
	全体研修⑨	教育相談・特別支援教育研修 戸田市立新曾北小学校教頭 山下理恵子先生 「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営」
	研究推進⑤	夏季休業期間中の研修日程の確認、各部のリーダー・活動確認、各ブロックの授業者・教材・研究授業日の確認、目指す児童像・研究仮説の案
	全体研修⑩	研究推進⑤報告、目指す児童像・研究仮説の検討
	部会	指導案枠の検討、掲示物・児童意識調査アンケートの検討・作成
8月27日(木)	全体研修⑪	不審者対応研修 新座警察署生活安全課 大野様
	学年ブロック	目指す児童像の検討、教材研究
9月 1日(火)	研究推進⑥	目指す児童像・研究仮説の決定、2学期の予定の確認
9月 7日(月)	全体研修⑫	研究推進⑥報告、目指す児童像・研究仮説の決定、各部会の報告
	学年ブロック	各ブロックの目指す児童像、育てたい力の検討
9月29日(火)	研究推進⑦	全体研修会(各研究授業)の担当分担、研究授業・協議会内の役割確認
10月19日(月)		研究推進⑦報告、役割分担、今後の予定
	学年ブロック	高学年ブロックプレ授業(5-1見世「大造じいさんとガン」) 大和田小学校 児玉裕子 先生
10月27日(火)	全体研修⑬	高学年ブロック研究授業(6-2中谷「やまなし」) 大和田小学校長 児玉裕子 先生
10月28日(水)	学年ブロック	低学年ブロックプレ授業(2-3山口「お手紙」) 陣屋小学校長 谷 眞弓 先生
11月 2日(月)	全体研修⑭	低学年ブロック研究授業(1-2鶴岡「じどう車くらべ」) 陣屋小学校長 谷 眞弓 先生
11月30日(月)	学年ブロック	教材研究、研究授業の振り返り
12月 7日(月)	研究推進⑧	2学期の振り返り、3学期の予定、紀要の構想
	全体研修⑮	研究推進⑧報告、教材研究等
12月22日(火)	研究推進⑨	研究紀要の内容・役割分担、3学期の予定の確認
1月 7日(木)	全体研修⑯	研究推進⑨報告、役割分担の確認
	部会	紀要の内容検討、役割分担等
1月18日(月)	部会	紀要作成
	学年ブロック	教材研究、紀要作成
1月25日(月)	学年ブロック	中学年ブロックプレ授業(3-2佐藤「すがたを変える大豆」) 指導主事 佐久間幸代 先生
2月 1日(月)	全体研修⑰	各部の活動報告、来年度の活動の方向性の確認
2月 2日(火)	研究推進⑩	中学年研究授業の役割確認、今後の流れの確認、講演会について
2月 8日(月)	全体研修	中学年ブロック研究授業(4-2下谷「アップとルーズで伝える」) 指導主事 佐久間幸代 先生
2月22日(月)	全体研修⑱	十文字学園女子大学教授 富山哲也先生 講演「アクティブ・ラーニングと国語科の指導法」

調査・環境研究部の取り組みについて

今年度、調査・環境部は以下の3つのことを中心に行った。

- 1.国語の学習における意識調査 2.校内掲示物の整備 3.教室掲示物の作成

また、全国学力テストや、学期末のまとめテスト、三達検証テストなどのテストの計画・実施・考察については、学力向上部と連携して取り組んだ。

1.国語の学習における意識調査について

(1) ねらい

- 新開小学校児童の国語の学習における意欲・関心を把握する。
- 児童の実態を把握し、研修の方向性を決める資料とする。

(2) 内容について

集計しやすいよう、マークシート形式の解答用紙にした。質問内容は、以下の通りである。

- あなたは国語の学習がすきですか。
① すき ②どちらかといえばすき ③どちらかといえばきらい ④きらい
- あなたが「1」で選んだ答えの理由は、どれが一番近いですか。
① 文章を読むことがすき(きらい) ②文章を書くことがすき(きらい) ③先生や友だちの話を聞くことがすき(きらい)
④自分の考えを相手に伝えることがすき(きらい) ⑤みんなの前で話すことがすき(きらい)
⑥学級会やグループで話し合うことがすき(きらい)
- あなたは教科書や本などの文章を読むことが好きですか。
① すき ②どちらかといえばすき ③どちらかといえばきらい ④きらい
- 物語文と説明文なら、どちらを読むことがすきですか。
① 物語文 ②説明文 ③どちらもすき ④どちらもきらい
- あなたは作文や日記などの文章を書くことがすきですか。
① すき ②どちらかといえばすき ③どちらかといえばきらい ④きらい
- どんな文を書くことが好きですか。
① 作文 ②感想文 ③物語 ④その他
- あなたは先生や友だちの話を聞くことができますか。
① できる ②どちらかといえばできる ③どちらかといえばできない ④できない
- あなたは自分の考えを相手に伝えることができますか。
① できる ②どちらかといえばできる ③どちらかといえばできない ④できない
- あなたはみんなの前で話すことはすきですか。
① すき ②どちらかといえばすき ③どちらかといえばきらい ④きらい
- あなたは学級会やグループで話し合うことはすきですか。
① すき ②どちらかといえばすき ③どちらかといえばきらい ④きらい

作成に当たって、以下のことを工夫した。

- 継続してアンケートを取っていくことが前提だったので、全学年同じ質問内容にした。
→そのため、1年生にも分かりやすいような言葉かつ国語に対する意識が読み取れるものにした。
- 「読む」「聞く」「話す」分野において分けて質問し、傾向が読み取れるよう工夫した。

(3) 検証時期について

今年度、1学期の校内研修にて意識調査の内容・形式を話し合い作成した。その後、9月に全学年実施し、考察を3学期行った。

(4) 結果

Wフォルダ：校内研修：国語アンケートまとめを参照。

(5) 考察

国語 意識調査 質問1・2

学年	結果	考察
1年	ほとんどの児童が好きと答えている。	ひらがなを覚えていない児童が、本を読めない・書けないなどで苦手意識を持っているようだ。
2年	文章を読むことは好きな子が多いが、文章を書いたり、みんなの前で話すことが苦手な子が少しある。 国語が好きな理由では、先生や友達の話を聞くのが好きという理由が多かった。書くことへの苦手意識をもつ子が少しある。 嫌いな子の理由が、みんなの前で発表しあうことで、恥ずかしいという気持ちが強いようである。	文章を読むのは、好きな児童が多いが、 <u>書くことについては抵抗がある児童が見られるのでスムーズに取り組めるような手立てが必要である。</u>
3年	国語がすき、どちらかといえば好きと答えた児童 80%	文章を読むことが好きな児童が多い。 「どちらかといえば嫌い」の理由としては <u>書くことが苦手</u> という児童が多く見られた。
4年	すきと答える児童…80パーセント以上	両学級ともすきと答える児童が多い。 理由については学級ではらつきが出た。 嫌いと答えた児童は、 <u>文章を書くこと・発表することがきらい</u> 。→はずかしいという気持ちと、どう伝えたらいいか分からない気持ちがあるようだ。
5年	まあまあ好き以上が多い。 きらい 5人	話すこと <u>書くことが苦手</u> 。 好きな子は読んだり書いたりすることが好き。
6年	約35%の児童が「きらい・どちらかといえばきらい」 9%の児童が嫌い。	嫌い・どちらかといえば嫌いのうち60%の子が「 <u>文章を書くことがきらい</u> 。」 好き→みんなの前や学級会で話すことが好きと答える。
ひま	好きが多いが100%ではない。	ひらがなが読めると、文章も(本も)楽しく理解して読むことができる。

質問3・4

学年	結果	考察
1年	好きが多いが、嫌いな児童も一定数いる。物語、説明文ともに好きな児童が多い。	物語や説明文だけでなく、図鑑などでも飽きずに読んでいる。少しずつ長い文章の物語も読めるようになってきている。
2年	教科書も物語も読むことが大好きな児童が多い。多くの児童が教科書や本を読むことが好きである。本を読むことが全体的に好きである。	全体的に読書が好きで、図書室の利用も多い。
3年	読むことに関しては約90%好きと答えている。	物語文が好きな児童は60%と半分以上に対し、説明文は約15%
4年	読むことが好きな児童が多い。	2組は好きが100%に対し、1組は嫌いと答える児童もいる。 物語が好きな児童が多いが、説明文も好きと答える児童もいる。
5年	読むことは好きが多い。 読むのがきらい 2人	物語が人気だが、嫌いな児童はすくない。
6年	全体的に文章を読むことが好き。	物語と説明文ならば、圧倒的に前者の方が人気。
ひま	文章を読むことが好きな子は多い。	図書室に行くような声かけを行ったり、朝読書・はなまるタイムでも読書を取り入れ、本に多くふれさせている。読書通帳をため、公民館に行ったりもして、意欲が高まっている。

質問5・6

学年	結果	考察
1年	好きと答える児童が多い。	ひらがなの読みが苦手な子が、書くことも抵抗がある苦手意識を持っている。 ほとんどの子は日記などの活動を通して、書くことを楽しんでいる。
2年	作文や日記など書くことが嫌いな児童が3割くらいいるのでこれからの課題だと思う。 作文や日記を書くことがきらいと答えた子は0であった。 日記は毎週日記にしていたので、なれてきたと思う。	書き方が十分に理解できていないので、機会を多くもち、慣れさせていくことが重要。 表記の仕方がわからない。「つ」「は」「わ」など
3年	約80%以上の児童が好きと答えている。	物語文を書くことに楽しさを感じている児童が多い。
4年	半数以上は好きと答える。	1組・・・好きが100% →物語を書くのが好きも多い。

		2組・・・好きが60% →物語・感想文ともにすきが多い。 1組・2組でばらつきが多い。
5年	どちらかといえばが多い。	物語をかく、その他が多く、作文が好きな児童が少ない。
6年	文章は書くことが苦手と答える児童が半数以上。	自分の考えを書くことが苦手。 日頃から短い敏捷で書かせる力をつみあげていくことが必要。
ひま	書くことについて嫌いな子が多い。	毎日、朝の会で日記を書いている。 中には、書くことが思いつかず時間がかかってしまうことがあり、書くことへの意欲がわからない子もいる。 自分の気持ちやできごとなどかけるようになってきた。

質問7・8・9・10

学年	結果	考察
1年	ばらつきがみられた。	聞くことよりも、話すことに抵抗がある児童が多い。また、グループでは話せるが、みんなの前で話すのは難しいと感じる児童が多い。
2年	話を聞くことが苦手な子が2割おり、自分の考えを伝えることができないと自覚している子が3割おり手立てを工夫する必要を感じる。 話を聞ける、自分の考えを相手に伝えられると全員答えられているが、声かけ、手立てが必要な子もいる。 自分のことについて話すのは苦手な児童も学級会で議題について発表するのは好きなようである。	普段の会話や不ループの時はよく会話をしているが、皆の前での発表は臆する子がいる。 皆の注目を浴びる機会が苦手意識がある。
3年	話を聞くことは約80%以上ができると答えている。 話すことは約60%がすきと答えた。	みんなの前で話すのが好きな児童は約50%と半分で苦手意識を持つ子も多い。 学級会での話す場面も同様に、人前で話すことがあまり得意でない児童が多いことが課題。
4年	できる・好きが多い。	話す・聞くはできるが多いが、相手に伝えるに対して苦手意識を持っている児童も数人いる。
5年		話すことを苦手とする児童は多いが、聞いたり話したりすることはできる。また、話し合いは好きな傾向にある。

6年	話を聞く…おおよそできている。 話す…半数以上。	「伝える」ことに苦手意識をもっている 子が多い。(約半数の子が苦手) しかしみんなで話し合うことは嫌い ではないようである。
ひま	話は聞けるが、発表する伝える部分は苦手である。	話を聞く姿勢、態度などの定着をはか ったため、聞くことができる子が多く なっているが、自分の思いや気持ちを 人前で又は友達に伝えることを苦手と することが多いため、機会を増やす必 要がある。

以上の結果より、児童は「読むこと」よりも「書くこと」について苦手意識をもっていることが分かる。

○子どもたちの苦手を少なくして(書く)国語に対する意欲を高める

○子どもたちの好きを活かして(読む)、国語に対する意識を高める。

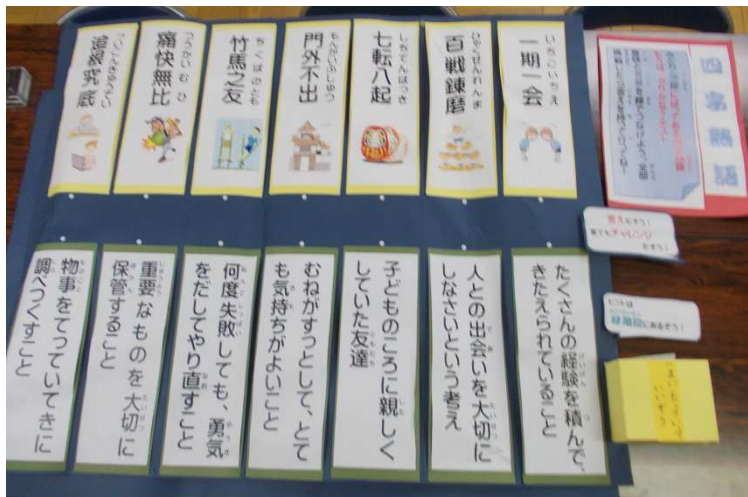
どちらの方向でも研究できると感じた。

II. 校内掲示物の整備

(1) ねらい

- 言語についての掲示をすることで、児童の言葉に対する興味・関心を高める。
- 様々な言語の種類に対する掲示をすることで、言語に対する知識を増やす。

(2) 内容について



四字熟語 (高学年作成)

掲示時期:9・10月掲示

工夫点

以前の研究で階段に貼られていた四字熟語を、復習の意味を込めて、問題形式に作り直した。ふりがなをふったり、表に問題裏に回答が載っている用紙を横に置いたりして、より多くの児童に触れられるように工夫した。

性格を表す言葉 (中学年作成)

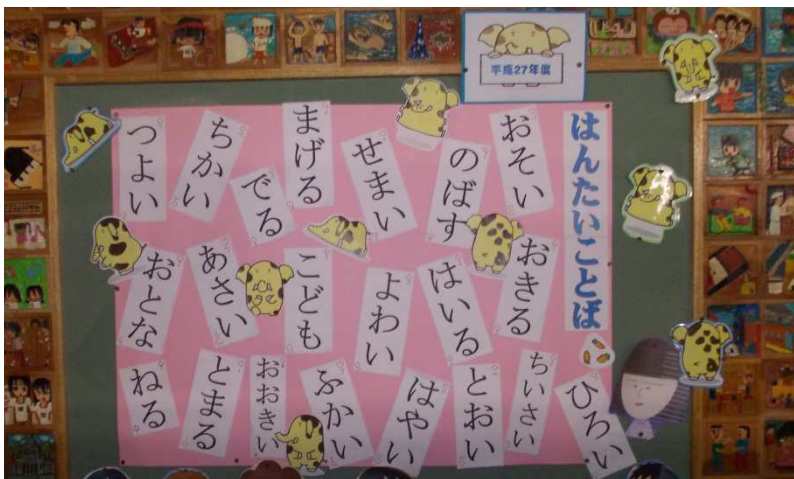


掲示時期:11・12月掲示

工夫点

児童が親しみを持つキャラクターと、様々な性格を表す言葉をたくさん集めた。「登場人物の性格を一言で表すと…」と投げかけ、どんな人物かを表す適切な表現を探せるようにした。低学年にもわかりやすいよう、難しい表現には簡単な意味も表示した。

反対言葉 (低学年作成)



掲示時期:1・2・3学期

工夫点

動詞や形容詞、名詞で紛らわしい反対言葉をトランプにした。答えは、トランプの同じマークのカード同士がペアとなっている。どの学年でもすぐに取り組めるよう、全てひらがな表記にし、字を大きく表示することで読みやすくした。

III. 教室掲示物の作成

(1) ねらい

- 全校同じものを使用し、新開小学校共通して指導できる環境を作る。
- 内容を精選し、わかりやすくかつ視覚的に理解しやすくする。

(2) 内容について



聞き方名人・話し方名人

- 低学年から高学年の系統性をもたせた。
- 指導要領の文言を引用しながら、各ブロックの目標に沿って作成した。
- 特別支援の視点から、できるだけ色を使わず、シンプルなデザインにした。
- 発達段階に併せて、文言を変えた。

声のものさし

- どの学年がみても、分かりやすいよう絵や配色を工夫した。
- 数字表記だけでなく、言葉や絵を使って、どの児童でも理解できるようにした。

発表の仕方

- 字の大きさ(文の内容によって字の大きさを変更)
- 全学年共通な文にして、簡潔なものにした。

低学年ブロック

指導者 新座市立陣屋小学校

校長 谷 眞弓 先生

授業者 本授業 1年2組 鶴岡 樹 教諭

「じどうしゃくらべ」

プレ授業 2年3組 山口 薫 教諭

「お手紙」

第2学年3組国語科学習指導案

日時 平成27年10月28日(水) 6校時
 2年3組 教室 (在籍児童数26名)
 指導者 教諭 山口 薫

1 単元名・教材名 お気に入りのところをペープサートで紹介しよう

学習教材名

- ・中心学習教材 「お手紙」(光村図書 2年下)
- ・補助教材 「お手紙」のシリーズ作品

2 身につけさせたい力

場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。(読 ウ)

3 上記のために選択した単元を貫く言語活動とその特徴

本単元では、単元を貫く言語活動として、ペープサートを使って発表することを位置づけた。単純な一斉音読に終始すると、細かい叙述をしっかりと追いつきながら読むより、友達の声に合わせて適当に後追いついてしまうことが考えられる。簡単な動作も付けて演じるペープサート劇は、新鮮で学習意欲を喚起する言語活動であると考えられる。また、場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことの実現にふさわしいと考えた。

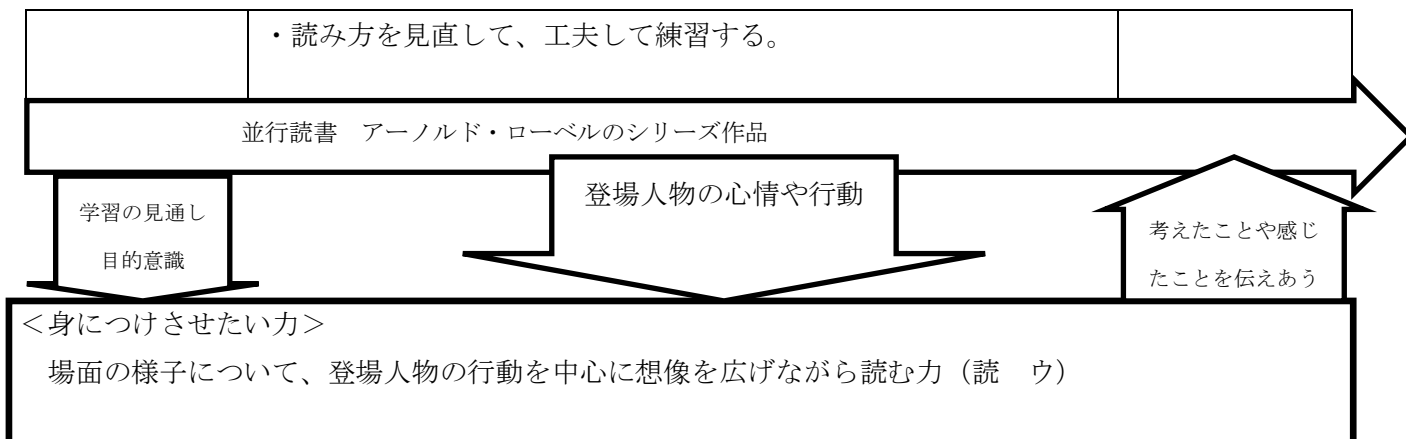
本教材は、7割以上が会話文からなる作品である。会話の際の2人の位置、距離などを考えることで2人の心情と心の通い合いを読み取ることができる。

この活動を支えるためには、授業の前半での一斉の読み取りを入念にし、授業後半の活動へとつなげていく。また、「お手紙」で学習したことを生かして、並行読書でお気に入りの本を見つけ、ペープサート劇にしていく。

単元構想図

単元を貫く言語活動：「お気に入りの話をペープサートで紹介しよう！」(全12時間)

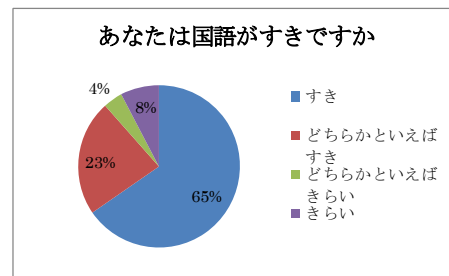
第一次(2時間)	第二次(9時間)	第三次(1時間)
<ul style="list-style-type: none"> ・教材文の読み込み。 ・ペープサートについて知り、単元の見通しを持つ。 ・学習計画について知る。 ・並行読書を進めていくことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材「お手紙」を読み、登場人物について確認する。 ・音読の仕方について確認する。 ・登場人物の言ったこと、したことについて読む。 ・主語、述語について読む。 ・二人が長いこと手紙を待っていたのはなぜかを考える。 ・新出漢字の指導。 <p style="text-align: center;">----- 入れ子構造 -----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がまくんとかえるくんのシリーズのお話の中から、ペープサート劇をしたいところを選んで練習する。 ・ノートに書き写し、読み方や書き方について書き込む。 ・ペープサート劇の発表練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シリーズ作品の中からお気に入りの話でペープサート劇をする。 ・友達のよいところを見つけ、紹介しよう。



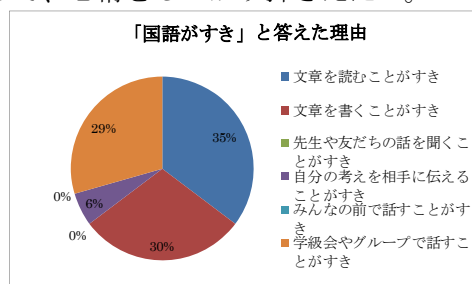
4 単元について

(1) 児童について

本学級では、毎時間音読に取り組んでいる。音読をすることによって、より物語の内容や登場人物の心情を理解したり、言語能力を高めることができると思う。1学期に行った『ふきのとう』や『スイミー』の音読発表会では、たくさんの児童が役割に立候補し、登場人物になりきって音読したり、せりふを考えたりして楽しんで活動してきた。ただ、登場人物の気持ちの深い読み取りまでは出来ていない児童もいるので、入れ子構造にして、心情をしっかり押さえたい。



国語の意識調査では、「国語の学習が好きですか」という質問に対して9割の児童が、「好き」「どちらかというとき」と答えており、全体的に国語に対して意欲があるといえる。好きな理由としては、文章を読むことが好きな割合が高く、本に対して興味・関心をもっていることがうかがえる。



(2) 教材について

本単元は、学習指導要領「C 読むこと」の(1)目標(3)

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

内容①指導事項(1)

ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読すること。

ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

を受けて設定されている。

(3) 指導について

本単元を貫く言語活動として、「お手紙やそのシリーズ本を読んで、お気に入り場面の登場人物の心情や行動をペープサートを使って発表する」を位置付けた。

具体的な手立て①・・・学習の見通しをもたせる

児童に学習の見通しをもたせるために、単元計画を掲示する。また、ペープサートの見本を見せることで意欲付けをする。

具体的な手立て②・・・入れ子構造による単元計画

本単元の「お手紙」は、主にかまくんとかえるくんの会話文で成り立っている。授業の前半では、読みのポイントとして「かぎかっこ」と「挿絵」に着目させ、心情や行動を全体で読み取って確認していく。後半では、自分たちのお気に入りの場面を選び、読み方やペープサートの動かし方などを前半で学んだことを生かして進めていく。

具体的な手立て③・・・読書環境の整備

教室にアーノルド・ローベルの関連図書を用意することで、並行読書を円滑に進めることができると考える。そのため、図書室の本だけでなく、図書館の団体利用をすることで、図書を確保する。

具体的な手立て④・・・既習事項の掲示

主語・述語のとらえ方等、国語の学習コーナーを作り、困ったときは参考にできるよう、掲示をしておく。

5 単元の目標

- (1) 自分が感じた物語の楽しさをペープサートで演じて楽しもうとしている。【関心・意欲・態度】
- (2) 人物の様子や気持ちを想像し、物語の様子が伝わるように工夫して読むことができる。【読むこと】
- (3) 文の中における主語と述語の関係を理解することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

6 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	①ペープサート劇をするという目的をもち、進んで読んだり考えたりしようとしている。 ②意欲的にペープサート劇に取り組もうとしている。	①人物の様子や気持ちを想像し、物語の様子が伝わるように工夫して音読している。 (1) ア ②登場人物の行動や会話を中心に、場面の様子について想像を広げながら読んでいる。 (1) ウ ③自分の音読と友達の音読を聞き比べて、感想を深めている。 (1) オ	文の中における主語と述語との関係に注意している。(1) イ (カ)
学習活動に即した評価規準	①自分が感じた物語の楽しさをペープサートで演じて楽しもうとしている。 ②本を読んで自分の好きな場面を見つけようとしている。	①登場人物の行動や会話を中心に、場面の様子について想像して読んでいる。 ②場面の様子が表れるように音読の工夫を考えている。	文の中における主語と述語との関係に注意している。

7 指導計画 (全12時間)

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
---	--------	------	-----------

第一 次	1 ・ 2	「お手紙」のペープサート劇するという言語活動の見通しを持つ。(第一次)	○音読の仕方 ○ペープサート劇 ○シリーズの作品 ○漢字の確認	【関】 楽しいペープサート劇にするために学習の見通しをもっている。(観察) 具体的な手立て①
	3 ・ 4	「お手紙」を読み、好きなどころをペープサートで紹介する。(第二次) ○「お手紙」を音読し、登場人物やあらすじについてワークシートに書く。 ○場面分けをする。 ○がまくんとかえるくんのシリーズの中からお気に入りの話を選ぶ。 ○2人組でお気に入りの場面について話し合い、ペープサート劇をやってみたい場面を決める。	○登場人物 ・がまくん ・かえるくん ・かたつむりくん ○お話のあらすじ ○場面分けの仕方 ○がまくんとかえるくんのシリーズの話	【読】 登場人物の行動や会話から、場面の様子について想像しながら読んでいる。(発言・ワークシート) 【読】 場面ごとに人物の行動と会話を整理している。(ワークシート)
第二 次 大 れ 子 構 造	5	○がまくんの家でのやりとりについて気持ちを考える。 ○「かなしい」「ふしあわせ」という気持ちを考える。 ○ペープサート劇をしたいところをノートに書き写し、読み方や動き方を書き込む。	○お手紙をもらったことのないがまくんの気持ち ○かえるくんの気持ち ○音読や動きの仕方 ○悲しみを表す読み方	【読】 登場人物の行動や会話から、場面の様子について想像しながら読んでいる。(発言・ワークシート) 【読】 場面ごとに人物の行動と会話を整理している。(ワークシート)
	6	○かえるくんの家での様子について考える。 ○かえるくんとかたつむりくんとのお受け答えについて考える。 ○カギ括弧の中の言葉に気をつけてペープサート劇の練習をする。	○登場人物の気持ちになった読み方 ○登場人物の理解(行動、会話) ○音読の工夫(声の大きさ、読む速さ、間) ○動きの工夫(何をするか、動きの速さ)	【読】 登場人物の行動や会話から、場面の様子について想像しながら読んでいる。(発言・ワークシート) 【読】 場面ごとに人物の行動と会話を整理している。(ワークシート)
	7 本 時	○お手紙の到着を待つかえるくんの気持ち、何も知らないがまくんの気持ちについて考える。 ○地の文に気をつけて、ペープサート劇の練習をする。 ○班の人と発表をし合う。	○繰り返される表現の読み方 ○地の文の読み方	【読】 登場人物の行動や会話を中心に、場面の様子について想像し、お気に入りの場面を見つけて読んでいる。 【読】 登場人物の行動や場面の様子に気をつけてペープサート劇をしている。(活動)

8	<p>○窓の外ばかり気にするかえるくんを不思議に思うがまくんの気持ちについて考える。</p> <p>○手紙がくるとわかったがまくんの気持ちについて考えて音読する。</p>	<p>○登場人物の理解（行動、会話）</p>	<p>【読】 人物の様子や気持ちを想像し、物語の様子が伝わるように工夫して読むことができる。（ワークシート）</p>
	<p>○反省を生かしてペープサート劇の練習を行う。</p> <p>○友達の助言や読み方を聞き、音読の仕方を工夫し直す。</p>	<p>○音読の工夫（声の大きさ、読む速さ、間）</p> <p>○動きの工夫（何をするか、動きの速さ）</p>	<p>【読】 登場人物の行動から場面の様子に気をつけて読み、ペープサートを動かしている。（観察）</p>
9	<p>○かえるくんの様子や行動について考える。</p>	<p>○場面の様子や行動の理解（行動、会話）</p>	<p>【読】 登場人物の行動や会話を中心に、場面の様子について想像して読んでいる。（ワークシート）</p>
	<p>○ペープサート劇の練習を行う。</p> <p>○班で発表を聞き合い、感想や助言を伝え合う。</p>	<p>○友達の発表を見る観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読の仕方・動かし方 ・お気に入りの話、わけ <p>○伝えること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よかったところ ・そのわけ 	<p>【関】 自分が感じた物語の楽しさをペープサートで演じて楽しもうとしている。（発表）</p> <p>【読】 登場人物の行動から場面の様子に気をつけて読み、ペープサートを動かしている。（観察）</p> <p>【読】 友達の音読を聞いて、読み方や動きについてよかったところを伝えることができる。（発言）</p>
10	<p>○かえるくんからお手紙をもらったがまくんの気持ちになって、かえるくんへ手紙を書く。</p>	<p>○かえるくんへ向けた手紙</p>	<p>【読】 人物の様子や気持ちを想像している。（ワークシート）</p> <p>【言】 主語と述語の関係を理解して書いている。（ワークシート）</p>
	<p>○新しい班で発表を聞き合い、感想や助言を伝え合う。</p> <p>○感想を交流する。</p>	<p>○友達の発表を見る観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読の仕方・動かし方 ・お気に入りの話、わけ <p>○伝えること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よかったところ ・そのわけ 	
11	<p>○がまくん、かえるくんへ向けて手紙を書く。</p>	<p>○がばくんとかえるくんへ向けた自分の気持ち</p>	<p>【読】 場面の様子が表れるように音読の工夫を考えている。（音読・ワークシート）</p> <p>【言】 主語と述語の関係を理解して書いている。（ワークシート）</p>

		<p>○これまでの学習を生かし、音読やペープサートの工夫をする。</p> <p>○班で発表し、聞き合う。</p> <p>○友達の助言をもとに工夫し直す。</p>	<p>○音読の工夫</p> <p>○動きの工夫</p>	<p>【書】伝えたいことを簡単に手紙に書くことができる。</p> <p>【読】友達の音読を聞いて、読み方や動きについてよかったところを伝えることができる。(発言)</p>
第三次	12	<p>「お手紙」シリーズの本を読み、好きなどころをペープサート劇で紹介する。(第三次)</p> <p>○お気に入りの本をペープサートで紹介する。</p> <p>○感想を交流する。</p>	<p>○友達の発表を見る観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読の仕方・動かし方 ・お気に入りの話、わけ <p>○伝えること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よかったところ ・そのわけ 	<p>【関】ペープサートで自分の思いを表現しようとしている。(発表)</p> <p>【読】登場人物の行動から場面の様子に気をつけて読み、ペープサートを動かしている。(観察)</p> <p>【読】友達の音読を聞いて、読み方や動きについてよかったところを伝えることができる。(発言)</p>

8 本時の学習指導 (7 / 12時)

(1) 目標

人物の様子や気持ちを想像し、声の出し方を工夫してペープサート劇で表現することができる。

(2) 評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 読む能力
自分が感じた物語の楽しさをペープサートで演じて楽しもうとしている。	登場人物の行動や会話を中心に、場面の様子について想像し、お気に入りの場面を見つけて読んでいる。

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 前時の振り返りをする。	○がまくんとかえるくんの気持ち	○前時からの流れを確認しつつ、本時の場面を押さえていく。	5
2 音読をする。 ・一人読み ・順番読み	○音読の仕方	○一人読みをすることで読み方の確認と心の準備をする。 【読】場面の様子が表れるように音読の工夫を考えている。	
3 本時の学習課題を確認する。	○課題の把握		
がまくんとかえるくんの気持ちを読みとってペープサートげきをしよう			
4 登場人物の行動や発言を確かめ、そのときの気持ちについて考え、ワークシートに書く。	○まどから何度も郵便受けを見るかえるくんの気持ち ○地の文の違い	○かえるくんは何回、窓から郵便受けを見たのか、そのときどんな気持ちだったのかを考えさせる。 ○三回出てくる「まだやって来ません」に	20

		<p>ついて、かえるくんの気持ちを想像させる。</p> <p>○「まだやって来ません」の前の文についても着目させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価場面 <学習活動に即した評価規準> ウ ① <評価方法> ワークシートの記述による分析 <手立て> A 基準の児童 ・他の地の文にも目を向けさせる。 C 基準の児童 ・見つけられない児童には文章を絞ったヒントカードを与え、自分から書き始められるように支援する。</p> </div>	
<p>5 ペープサート劇の練習を行う。</p>	<p>○地の文の違いに気をつけた音読</p> <p>○ペープサートの動かし方</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>具体的な手立て②</p> <p>○先ほど学習した地の文の読み方を自分たちの台本（ノート）に書き加え、声の出し方やペープサートの動かし方をするよう声かけする。</p> <p>【読】人物の様子や気持ちを想像し、物語の様子が伝わるように工夫して音読している。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価場面 <学習活動に即した評価規準> ウ ② <評価方法> ペープサート劇の練習の考察 <手立て> A 基準の児童 ・ペープサートの動かし方と地の文の表現が更に良くなるよう声かけする。 C 基準の児童 ・会話文に気持ちのこめられるよう指導していく。</p> </div>	<p>10</p>
<p>6 班の人と発表を聞き合い、感想や助言をする。</p>	<p>○友達への助言</p> <p>○感想交流</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価場面 <学習活動に即した評価規準> ウ ② <評価方法> ペープサート劇の練習の考察 <手立て> A 基準の児童 ・ペープサートの動かし方と地の文の表現が更に良くなるよう声かけする。 C 基準の児童 ・会話文に気持ちのこめられるよう指導していく。</p> </div>	<p>10</p>

<p>7 友達の助言を生かして、音読の仕方を工夫し直す。</p> <p>8 次時の見通しをもつ。</p>	<p>○ペープサート劇の振り返り</p>	<p>○友達のパープサート劇の良いところに気づかせる。</p> <p>【読】友達の音読を聞いて、読み方や動きについてよかったところを伝えることができる。</p> <p>○友達との助言を生かして、読み方やペープサートの動かし方を改善していく。</p> <p>○ペープサート劇の工夫、改善したことを次時の発表に生かしていくことを伝える。</p>
--	----------------------	--

(4) 板書計画

お手紙

めあて
がまくんとかえるくんの気持ちを読みとってペープサートげきをしよう。

かえるくんの絵

かえるくんは、まどから
かたつむりくんは、まだ やって来ません。

かえるくんは、まどから
かたつむりくんは、まだ やって来ません。

かえるくんは、まどから
かたつむりくんは、まだ やって来ません。

かえるくんは、まどから
かたつむりくんは、まだ やって来ません。

○まどから何度もゆうびんうけを見ているかえるくんの気持ちを考えよう。

中学年ブロック

指導者 新座市教育委員会

指導主事 佐久間 幸代 先生

授業者 本授業 4年2組 下谷 宏美 教諭

「アップとルーズで伝える」

「クラブ活動リーフレットを作ろう」

プレ授業 3年2組 佐藤 淳一 教諭

「すがたをかえる大豆」

「食べ物のひみつを教えます」

第4学年2組 国語科学習指導案

平成28年2月8日(月) 第5校時
 4年2組教室 (在籍児童数40名)
 指導者 教諭 下谷宏美

1 単元名 説明の仕方を工夫しよう!会社活動フリップ作り

- 教材名 ・中心学習材「アップとルーズで伝える」(光村図書4年)
 「クラブ活動リーフレットを作ろう」(光村図書4年)
 ・補助教材 ものの見方や情報などに関する説明文

2 身につけさせたい力

- ・段落相互の関係に注意しながら、自分の考えが明確になるように文章を構成する力(書く力)
- ・段落相互の関係を考えながら文章を読む力(読む力)

3 上記のために選択した単元を貫く言語活動とその特徴

言語活動・・・見つけた説明の工夫を使って会社活動フリップを作り、ポスターセッションをしよう。

「アップとルーズで伝える」において、読み取った段落相互の関係や説明の工夫を自分が発信者となってフリップを作ることにかし、学びを深めたいと考えた。フリップには、紹介したい会社活動の様子の写真を貼り、その裏にその様子を説明する文章を書く。児童は紙芝居のように、説明することができる。フリップの写真を選ぶ際には、対比関係にあるアップとルーズの特徴をとらえる必要がある。さらに、その写真と文章を対応させながら、段落のつながりを意識して文章を書く活動をすることができる。目的によって段落の構成を工夫できるよう、各段落を短冊に書いて入れ替えることができるようにする。段落相互の関係を読み取り、自分の考えを伝えるにはどうしたら良いか工夫できる活動であると考えた。

「見つけた説明の工夫を使って会社活動フリップを作り、ポスターセッションをしよう。」(全14時間)

第一次(3時間)	第二次(8時間)	第三次(3時間)
<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもたせる。 ・学習課題の設定。 ・学習計画の決定。 ・会社活動の振り返り。 <p>入れ子型</p>	<p>AB型・入れ子型ミックス方式</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 教材文を読み、説明の工夫を読み取る。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 読み取った工夫をいかして、自分のフリップを書く。 </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・写真と対応させた文章の工夫。 ・対比して説明する文章の工夫。 ・類比して説明する文章の工夫。 ・段落ごとの要点と、その構造図。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との交流。 ・ポスターセッション方式での発表。 ・学習の振り返り。

並行読書「もの見方や情報などに関する説明文」

相手意識
目的意識

説明の工夫を
読み取る。

フリップでの
交流

身につけさせたい力・段落相互の関係に注意しながら、自分の考えが明確になるように文章を構成する力(書く力)
 ・段落相互の関係を考えながら文章を読む力(読む力)

4 単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、4年生になってから説明的な文章の学習として「大きな力を出す／動いて考えてまた動く」「ウナギのなぞを追って」を学習している。「動いて考えてまた動く」では、問題提示や筆者の主張、その理由など段落の意味を考え、自分の筆者と似た体験を真似て書く活動を行った。「ウナギのなぞを追って」では、段落の要点をまとめてその役割を考える活動を行った。その中で、子どもたちは段落には意味があること、読み手に伝わりやすいように構成を工夫していることに気づくことができた。しかし、段落と段落をつなぐ言葉や段落相互の関係に気づき、考える力に課題がある。

また、「新聞を作ろう」という学習では、調べたことを取捨選択して文章を書く活動を行った。その中で、相手に伝わりやすい文章を書くためには事柄の順序を考えることが必要であると学ぶことができた。調べたことをそのまま書くのではなく、書く順序を考えながら「始め・中・終わり」で文章を構成することはほとんどの児童に定着しつつある。しかし、目的や相手によって文章の構成を考える活動は不十分であった。児童が書いた日記などを見ても、出来事を順に書いている文章や、段落のない文章が見られるため、文章全体の構成や段落相互の関係を理解する力は十分に身につけているとは言えない。

さらに、「新聞を作ろう」の中で写真を用いる児童も見られたが、その写真は全体を示すものがほとんどであり、写真と文章を対応させて書くことは行っていない状況である。

(2) 教材について

本単元は、学習指導要領「B書くこと」の(1)イ文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。と「C読むこと」の「(1)イ目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」を受けて設定されている。

中心学習材「アップとルーズ」では、「アップ」と「ルーズ」の情報伝達の違いを対比関係で説明している。冒頭部では、アップとルーズの特徴を示し、問いかけている。その答えを展開部においてアップとルーズの長所と短所を対比的に説明し、テレビの類似として新聞を例に挙げている。終結部では筆者の意見を述べ、まとめとしている。この文章は、写真が本文の説明と対応させて配置されているため、対比的な段落関係へと意識が向きやすいと考える。写真と文章の対応や、対比、類似など様々な説明の特徴を出し合ったり、要約をしたりしながら段落相互の関係を読み取り、「クラブ活動リーフレットを作ろう」において自分の説明に利用することができるように設定されている。

学習内容	単元・教材名	学習活動と関連する他領域等の指導
2年 説明の仕方を理解し、順序に沿って、簡単な構成を考えながら説明文を書く。	せつめいのしかたに気をつけて読もう 「しかけカードの作り方」「おもちゃの作り方」	・おもちゃの作り方 →図工科 →生活科
3年 段落で、中心になる言葉や文をとらえながら読み、それらを生かして説明文を書く。	せつめいのくふうについて話し合い、れいをあげてせつめいしよう 「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」	・大豆の食べ方 →総合
4年 各段落のつながりを考え、説明のしかたを工夫して、分かりやすく伝える文章を書く。	段落どうしの関係をとらえ、せつめいのしかたについて考えよう 「アップとルーズで伝える」「クラブ活動リーフレットを作ろう」	・クラブ活動 →特別活動

(3) 指導について

本単元を貫く言語活動として「会社活動紹介フリップ」を作ることを位置付けた。子どもたちが主体的に学べるように、作成したフリップをとなりのクラスの友達にポスターセッション形式で発表し、その場で説明の工夫の効果を実感できるようにしたい。児童が見通しをもって学習できるように、単元の導入でフリップを用いて説明するというゴールを示す。加えて、いくつかのフリップを教室内に掲示し、紹介することで学習への意欲付けと完成のイメージをもたせる。

教材文の段落相互の関係を読み取らせていくため、以下の方法で指導を行っていく。

- ① 「アップとルーズで伝える」を読み、文章全体を始め・中・終わりに分け、おおまかな構成をつかませる。
このとき、その区切り方で児童の間にずれが生じる可能性があるが、それを解消するために文章の中心となる語や接続語に注目させ、段落相互の関係をとらえる学習へと児童の問題意識をもっていきたい。
- ② 写真と説明している文章を見つけることによって写真と文章の対応について気づくようにする。
- ③ 文章の対比した書き方をとらえさせるために、アップとルーズの特徴をまとめ、文章の同じ書き方の場所を探す活動を行う。
- ④ 対比や類似などの説明の工夫の効果について考えるよう、中心教材と同じくものの見方について説明した文章を読ませる。

また、4学年の3学期には1/2成人式がある。総合の学習とも関連させて、今の自分・未来の自分を見据えて自分の伝えたいことを表現する力を付けていきたい。

5 研究主題との関わり

(1) 研究主題

「心ゆたかで笑顔あふれる新開っこを目指して」～生き生きと学びあう 国語科の授業の展開～

(2) 研究仮説

言語活動を通して、自分の力で自分の力で読み取る活動を重視して取り組むことで、自分の力で読み取り、自分の考えを説明したり、表現したりできる子を育てることができるであろう。

(3) 仮説に沿った手立て

具体的な手立て① 学習計画を児童とともに立て、ゴールを見据えて見通しをもって自ら学ぶことができるようにする。

具体的な手立て② 会社活動をとなりのクラスにフリップを使って説明するという目的を設けることによって、目的や相手に応じた文章構成の工夫を考えるようにする。

具体的な手立て③ 友達の意見と交流する活動を通して、自分の考えを深めるようにする。

具体的な手立て④ 話し合いのやり方を書いた「司会の手引き」を作成し、どの児童も話し合いに参加することができるようにする。

6 単元の目標

- ・説明的な文章を読んで感想をまとめたり、読み合ったりして互いの感じ方や考え方の良さを認め合おうとしている。 (国語への関心・意欲・態度)
- ・段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように文章を構成することができる。 (書く力)
- ・それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているか考えながら読むことができる。 (読む力)
- ・指示語や接続語は、段落相互の関係をつかむ手がかりになることを理解し、それらの言葉を適切に使うことができる。 (言語についての知識・理解・技能)

7単元の評価規準と学習に即した評価規準

	ア 国語への 関心・意欲・態度	イ 書く能力	ウ 読む能力	エ言語についての 知識・理解・技能
単元 の 評価 規準	説明的な文章を読んで感想をまとめたり、読み合ったりして互いの感じ方や考え方の良さを認め合おうとしている。	段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように文章を構成している。	それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているか考えながら読んでいる。	指示語や接続語は、段落相互の関係をつかむ手がかりになることを理解し、それらの言葉を適切に使っている。
学習 に即 した 評価 規準	① 自分の会社活動の良さに気づき、それを伝えようとしている。 ② アップとルーズの特徴をいかして伝える事柄を選んでいる。 ③ 書いた文章を読み合い、互いの良さを伝え合っている。 ④ 友達からもらったアドバイスをいかそうとしている。	① 自分の会社活動を振り返り、必要なことを調べて取材している。 ② 自分の考えが明確になるように、文章を構成している。 ③ 対比させて説明している工夫に気づき、それを使って自分のフリップを書いている。 ④ 写真と文章を対応させたり、内容を対比させたりして書き直している。 ⑤ 友達と発表し合い、説明の工夫について意見を述べ合っている。	① 段落と段落をつなぐ言葉に着目して読んでいる。 ② 写真と文章を対応させていることや、ものごとを対比させて説明していることに気づき、その効果を考えている。 ③ 段落相互の関係から、筆者の考えを読み取っている。	① 段落と段落をつなぐ言葉(指示語や接続語)に気づき、その効果を考えている。 ② 文章を構成するときに、適切に指示語や接続語を用いている。

8指導計画(全14時間)

次	時	学習活動 ○中心学習材 ◎ 補助学習材	■学習内容	◇評価規準(評価法) ・指導上の留意点
第一 次	一	学習の流れを知る。 学習計画を立てる。 全文を読み、何についての文章か確認する。	■学習計画の 立て方	・会社活動の紹介フリップを作成し、となりのクラスに向けて発表するという目的意識をもたせるようにする。 ・実物を見せ、完成品のイメージをつかむようにする。 具体的な手立て① 学習計画を児童とともに立て、ゴールを見据えて見通しをもって自ら学ぶことができるようにする。 ◇ア①(発言やノートの観察)
	二	会社活動のマッピングを作り、紹介したいことを2つ選ぶ。	■マッピング の作り方 ■紹介したい 事柄の選び	・自分たちの会社活動を振り返り、その良さに気づくように同じ会社同士でグループを作る。 ・日々の活動は、何のために行っているのか考えるよう声かけをする。 具体的な手立て② 会社活動をとなりのクラスにフリップを使っ

	三	アップとルーズの特徴を読み取り、自分の選んだ事柄はどちらで表すのが良いか考える。	<p>方</p> <p>■アップの特徴</p> <p>■ルーズの特徴</p>	<p>て説明するという目的を設けることによって、目的や相手に応じた文章構成の工夫を考えるようにする。</p> <p>◇ア① ウ① (ワークシートや発言の様子の観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アップとルーズの長所と短所を読み取り、ワークシートにまとめて視覚的にとらえるようにする。 ・「しかし」や「でも」などの接続語に着目させる。 ・紹介したい事が両方ともアップもしくはルーズになってしまう場合は、マッピングに戻って考え直すようアドバイスする。 <p>◇ウ② オ① (ワークシートの観察)</p>
第二次	四	全文を読み、大まかな内容をとらえる。(要点をまとめ、始め・中・終わりに分ける。)	<p>■音読の仕方</p> <p>■要点のまとめ方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・段落ごとに内容をまとめることによって全体の内容をつかむようにする。 ・要点をまとめるには、「中心となる文をさがす」ことが有効であると伝える。 ・文章全体を始め・中・終わりに分けることで、大まかな構造をつかませる。 <p>◇エ① (ワークシートの観察)</p>
	五	始めにあたる部分を読み、それぞれの段落の役割と説明の工夫を見つける。	<p>■音読の仕方</p> <p>■問い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・段落の中心となっている文に着目させ、文章構成図に表すことによって段落同士の関係に気づくようにする。 ・グループで、なぜ③段落に問いがあるのかを考えることから、筆者の説明の工夫を考えさせる。 <p>具体的な手立て③ 友達の見解と交流する活動を通して、自分の考えを深めるようにする。</p> <p>◇エ② (ワークシートや発言の様子の観察)</p>
	六	見つけた工夫をいかしてフリップの「始め」にあたる部分を書き直す。	<p>■段落の分け方</p> <p>■相手を意識した文章の書き方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真と文章を対応させて書くようにする。 ・書く型を作ることによって、前時に読み取った工夫をどの児童もいかせるようにする。 ・書いた文章を友達と読み合う際には、アドバイスの視点を示し、具体的に話合うことができるようにする。 <p>◇ウ③ ア④ (ワークシートや発言の様子の観察)</p>
	七	中にあたる部分を読み、それぞれの段落の役割と説明の工夫を見つける。	<p>■音読の仕方</p> <p>■写真と文章の対応のさせ方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・段落の中心となっている文に着目させ、文章構成図に表すことによって段落同士の関係に気づくようにする。 ・文章構成図を作成するのが難しい児童には、⑥段落の「このように」という言葉を手がかりにして段落のつながりを考えさせる。 <p>◇エ② (ワークシートの観察)</p>
	八	見つけた工夫をい	<p>■対比の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの事を対比させて書くようにする。 ・書く型を作ることによって、前時に読み取った工夫をどの児童

本時	かしてフリップの「中」にあたる部分を書き直す。	<ul style="list-style-type: none"> ■相手を意識した文章の書き方 	<p>もいかせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書いた文章を友達と読み合う際には、アドバイスの視点を示し、具体的に話合うことができるようにする。 <p>具体的な手立て④話し合いのやり方を書いた「司会の手引き」を作成し、どの児童も話し合いに参加することができるようにする。</p> <p>◇ウ③ ア④（ワークシートや発言の様子の観察）</p>
	<p>終わりにあたる部分を読み、それぞれの段落の役割と説明の工夫を見つける。</p> <p>見つけた工夫をいかしてフリップの「終わり」にあたる部分を書き直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■音読の仕方 ■類比で説明する工夫 ■段落の分け方 ■相手を意識した文章の書き方 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落の中心となっている文に着目させ、文章構成図に表すことによって段落同士の関係に気づくようにする。 <p>◇エ②（ワークシートの観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの事を対比させて書くようにする。 ・書く型を作ることによって、前時に読み取った工夫をどの児童もいかせるようにする。 ・書いた文章を友達と読み合う際には、アドバイスの視点を示し、具体的に話合うことができるようにする。 <p>◇ウ③ ア④（ワークシートや発言の様子の観察）</p>
第三次	<p>完成した文章を読み合い、発表の練習をする。</p> <p>発表する。</p> <p>単元の学習を振り返り、感想を交流し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■話し合いの仕方 ■アドバイスの仕方 ■発表の仕方 ■発表の仕方 ■質問への答え方 ■学習計画にそった振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・フリップのチェックシートを作り、具体的なアドバイスをできるようにする。 <p>具体的な手立て④話し合いのやり方を書いた「司会の手引き」を作成し、どの児童も話し合いに参加することができるようにする。</p> <p>◇ウ③ オ①（ワークシートや発言の様子の観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッション形式で考えを深め、説明の工夫を実感できるようにする。 ・発表の流れを作成し、自分たちで進められるようにする。 <p>◇ウ⑤（発言の様子の観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問されたことや、気づいたことをまとめる。 ・友達との話し合いから、説明の工夫の効果に気づく。 <p>◇ア④（発言の様子の観察）</p>

9 本時の学習指導（8 / 14時）

(1) 目標 対比させて説明している工夫に気づき、それを使って自分のフリップを書くことができる。

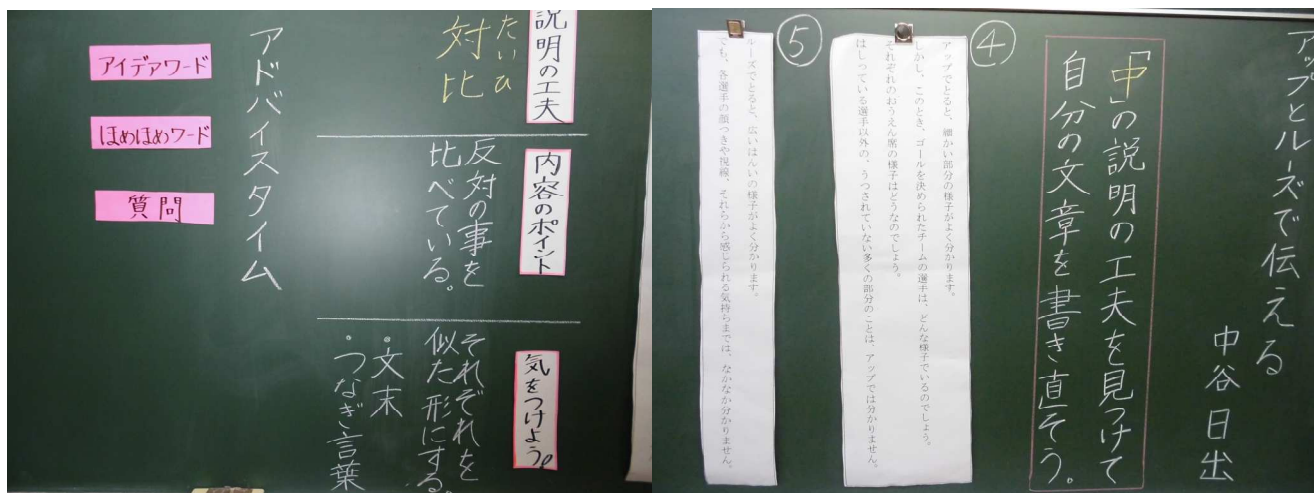
(2) 評価規準

対比させて説明している工夫に気づき、それを使って自分のフリップを書いている。

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 前時までの学習を振り返り、学習の課題を確認する。		<ul style="list-style-type: none"> 学習計画にそって振り返りをするので、今後の学習の見通しをもてるようにする。 	1
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「中」の説明の工夫を生かして、自分の文章を書き直そう！ </div>			
2 見つけた説明の工夫を確認する。	対比の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 対比の効果を考えさせる。 対比の視点を全体で確認し、児童が自分たちでアドバイスできるように板書する。 	2
3 文章の書き直し方を全体で確認する。	書き直し方	<ul style="list-style-type: none"> 教師が書いた文章を示し、その文章の問題点を挙げていく。どのようにしたらより良くなるか考えるようにする。 	7
4 前回書いた「中」の文章が対比になるように書き直す。	対比を用いた説明の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 対比になりにくい場合は書いていたアップの部分を書き直してもいいことを伝える。 ◇ウ④（ワークシートの観察）	10
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 手立て <ul style="list-style-type: none"> C評価の児童には、文章の型をもとにした穴埋め式のヒントカードをわたす。 B評価の児童には、より細かい視点が書かれたヒントカードを渡し、文章の見直しをさせる。 </div>			
5 グループで書いたものを読み合い、直す。	話し合いの仕方 アドバイスの仕方	<ul style="list-style-type: none"> 授業で確認した視点と照らし合わせて、友達の文章を読む。 直したものがわかりやすいように、透明シートで直すようにする。 対比の視点で書き直しができている児童を紹介し、自分の文章を振り返りやすくする。 ◇ア④（発言の様子の観察） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> 具体的な手立て④ </div> 話し合いのやり方を書いた「司会の手引き」を作成し、どの児童も話し合いに参加することができるようにする。	15
6 交流の結果を振り返る。	発表の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 全体で確認した判断基準と照らし合わせて、文章を読む。友達のアドバイスでどう変わったのかを引き出す。 	8
7 次時の課題を確認する。	学習の見通し	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画表を使って予告をし、見通しをもって取り組めるようにする。 	2

(4) 板書計画



(5) 資料

第6学年2組 国語科学習指導案

平成27年10月28日(火) 第5校時

6年2組教室 (在籍児童数 40名)

指導者 教諭 中谷 千秋

1 単元名 作品の世界をより深く読み味わう—賢治の世界展—

教材名 「やまなし」(光村図書6年)

- ・中心学習材 「やまなし」(光村図書 6年)
- ・補助教材 「イーハトーブの夢」(光村図書 6年)

宮沢賢治が書いた作品

2 身に付けさせたい力

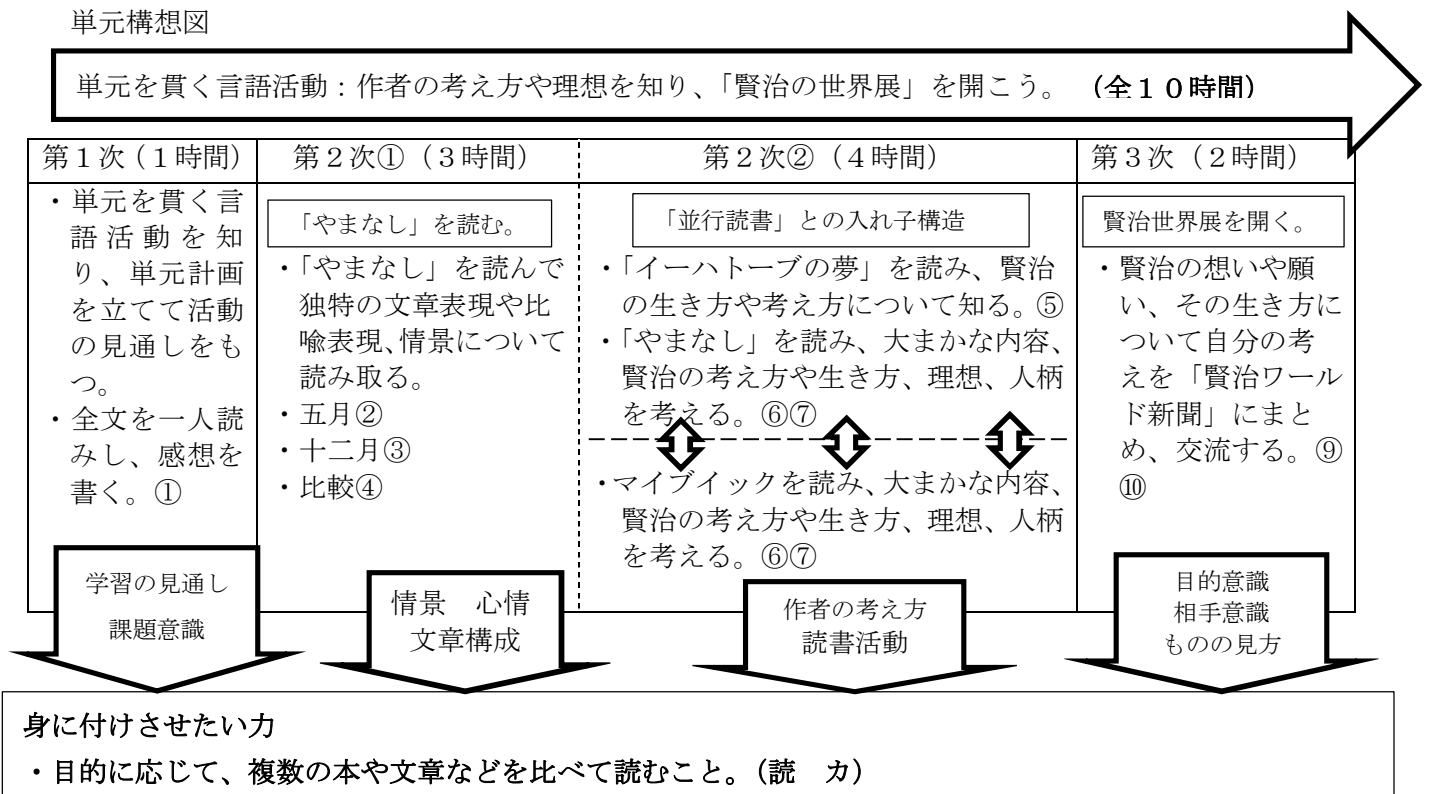
- ・目的に応じ、複数の本や文章を選んで比べて読むこと。(読 力)

3 上記のために選択した単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「宮沢賢治の作品を読み『賢治の世界展』を開こう」を位置付けた。ここで位置付ける世界展とは、各自が読んだ宮沢賢治作品について、自分なりの解釈を用紙にまとめ交流会を行う活動である。単なる感想文とは異なり、作者特有の文章表現や構成、言葉の使い方を、作者の伝記と重ねて読み解くことを意識して進めていきたい。

そこで、重要となるものが本単元で取り上げる補助教材「イーハトーブの夢」である。これは、宮沢賢治のものの見方や感じ方、作品世界の原風景を知るための参考になる。作者の伝記的事実を知ること、その生き方に触れ、作者の感じ方や考え方を想像しやすくなる。「やまなし」の他に、自分が選んだ賢治の他作を読み、「賢治の作品展」を開く。作者の想いを捉えたり、比べて読んだりする力を身につけ、自分の考えをまとめるのにふさわしい言語活動であると考えた。

単元構想図



4 単元について

(1) 児童について

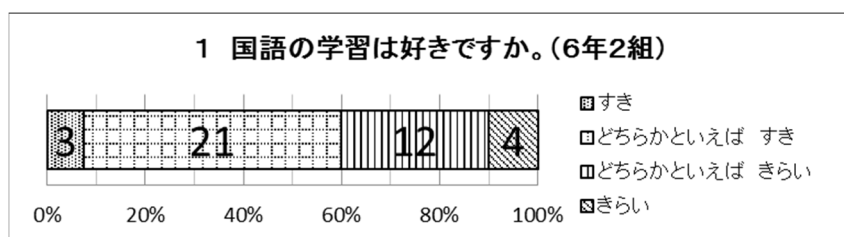
児童は、「C読むこと」の領域において、これまでに物語教材文「カレーライス」「森へ」を学習した。「カレーライス」では、登場人物の視点から、心情とその変化を共感的に読んだり、読者である自分の視点から叙述に即して登場人物について考えたりすることができた。「森へ」では、効果的な表現から様子を想像し、筆者の視点に立って心の動きを共感的にとらえたり、相手や薦めたい点を明確に意識したりして、並行読書していた自分の薦める本についての文章を書くことができた。

児童の多くは読書が好きで、たくさんの本を読もうと朝読書や週に一度のはなまるタイム（読書）の取り組みに力を入れている。しかしながら、児童が手に取る図書の種類や内容に偏りが見られ、中には読書自体に抵抗感をもっている児童も少なからずいる。読み取る力には個人差があり、全員に読解力がついているとは言えない。

○国語科におけるアンケート結果

以下のアンケート結果より、国語を「きれい・どちらかというときらい」と感じている児童が、クラスの4割を占めていることが分かった。また、その理由として4割（16人）の中の半数以上が「書くことがきれい」を理由にあげていた。読書は好きだが、「書くこと」に関して、苦手意識をもっている児童が少なくない。

すき	3
どちらかといえば すき	21
どちらかといえば きらい	12
きらい	4
合計	40



(2) 教材について

本単元は、学習指導要領「B 読むこと」の(1)目標の(3)

目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

内容①指導事項の(1)

カ 目的に応じて、複数の本や文章を選んで比べて読むこと。

を受けて設定されている。

(3) 指導について

本単元を貫く言語活動として「作者の考え方や理想を知り、「賢治の世界展」を開こう。」を位置づけた。賢治の世界観を理解するためには、内容の読み取りだけではなくその人生観や生き方も知る必要がある。そこで、第1次では、単元を貫く言語活動について、最終的にどのような活動を行うのかしっかりと見通しをもたせたい。第2次①では教材文「やまなし」を読むことを通して、独特の文章表現や比喻表現、情景の工夫について読み取らせることで、優れた叙述について自分の考えをまとめることができるようにする。また、副教材文「イーハトーブの夢」を読むことで、作者の生き方や人生が作品に大きな影響を与えているということに気づかせたい。第2次②では、「やま

なし」と児童自らが選んだ宮沢作品において、作者の考え方、理想、人柄を考えさせる。この時に、作者の生い立ちや時代背景も考慮しながら考えるようにする。(入れ子構造)第3次では、お互いの作品を紹介し合うことで、完成したものを「賢治の世界展」として掲示し、作品を書いた賢治の生き方・考え方についての友達の見方や考え方に触れることで、それぞれの見方に広がりをもたせたい。色々な見方・感じ方があるということに気づかせ、対比させてよむことの面白さを気づかせたい。

5 研究テーマおよびテーマとの関わり

(1) 研究テーマ

「心ゆたかで笑顔あふれる新開っこを目指して」
～生き生きと学び合う 国語科の授業の展開～

(2) 研究仮説

言語活動を通して、自分の力で読み取る活動を重視して取り組むことで、自分の力で読み取り、自分の考えを説明したり、表現したりできる子を育てることができるであろう。

(3) 仮説に沿った手立て

具体的な手立て①

完成品の提示

教師が初めに「宮沢賢治の世界展」で掲示する作品を児童に提示することで見通しをもてるようにする。

具体的な手立て②

授業形態の工夫

第2次では、同じマイブックを選んだ者同士がグループになるよう組み、学習を深めることができるようにする。

具体的な手立て③

ワークシートの工夫

第2次②で使用する、本教材とマイブックの2枚のワークシートを同じ型のものを使用する。児童が並行読書した作品についてまとめる際に作業をスムーズに進めることができるようにする。

具体的な手立て④

並行読書

並行読書の際、作者の考え、理想、人柄を感じられる部分にサイドラインで目印をつけるようにする。

具体的な手立て⑤

話合いの工夫

第2次②では、2～3人程度の小グループ話合いを取り入れる。友達の考えを聞くことで、自分の考えをより深めさせる。

6 単元の目標

(1) 物語の情景や言葉の使い方に興味をもち、作者の考え方や生き方を知らうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

(2) 複数の本や文章を比べて読み、作者のものの見方や考え方、理想について自分の考えを深めることができる。

【読むこと】

(3) 作品の中で使われている表現を味わい語感や言葉の使い方に気づくことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

7 単元の評価規準と学習に即した評価規準

	ア 国語への 関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての 知識・理解・技能
単 元 の 評 価 規 準	物語の情景や言葉の使い方に興味をもち、作者の考え方や生き方を知らうとしている。	複数の本や文章を比べて読み、作者のものの見方や考え方、理想について自分の考えを深めている。	作品の中で使われている表現を味わい語感や言葉の使い方に気づいている。
学 習 に 即 し た 評 価 規 準	<p>① 宮沢賢治作品に興味をもち、一つの作品を選び、読もうとしている。</p> <p>② 「賢治新聞」に興味をもち、見通しをもって取り組もうとしている。</p> <p>③ 物語の情景や言葉の使い方に興味をもっている。</p> <p>④ 作者の生い立ちに興味をもち、賢治について知らうとしている。</p> <p>⑤ 「賢治新聞」にまとめようとしている。</p> <p>⑥ 作者の思いや願い、その生き方について、自分考えを友達と交流しようとしている。</p>	<p>① 物語の大まかな内容（構成）をとらえ、登場人物を確認することができる。</p> <p>② 五月の場面の情景や優れた文章表現に気づき、あらすじを理解することができる。</p> <p>③ 十二月の場面の情景や優れた文章表現に気づき、あらすじを理解することができる。</p> <p>④ 二つの幻灯を比較し、共通点や相違点をとらえている。</p> <p>⑤ 「イーハトーブの夢」を読み、作者の生い立ちや生涯について年表や補助資料から読み取ることができる。</p> <p>⑥ 作者の生き方や理想がわかる箇所に気づき、自分の意見を書くことができる。</p> <p>⑦ 作者の生き方や理想を交流し、自分の意見を深めることができる。</p> <p>⑧ 作者の生き方や理想を「賢治新聞」にまとめることができる。</p> <p>⑨ 作者のものの見方や考え方について友達と交流し、自分の考えをさらに深める。</p>	<p>① 比喩などの文章表現がもたらす効果について気付いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比喩 ・ 文章構成 ・ 色彩表現 ・ 情景描写 ・ 擬声語 ・ 事態語

8 指導計画（全9時間）

次	時	学習活動 ○教科書教材◎自分で選んで教材	■学習内容	◇評価規準（評価法） ・指導上の留意点
第0次		○事前に宮沢賢治作品に触れさせる。	■読書カード	◇ア①（観察） ・事前に宮沢賢治作品に触れ・せ、興味・関心をもたせ環境作りをしておく。
第1次	1	○単元を貫く言語活動を知り、学習計画を立てて学習の見通しをもつ。 ○「やまなし」の全文を聞き、感想を書く。	■完成品のモデル提示 ■あらすじの把握 ■文章構成	◇ア②（観察） ◇エ①（ワークシート1） ・完成品のモデルを提示し、学習活動の流れをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">具体的な手立て①</div>
第2次 ①	2	○「五月」の幻灯を読み取る。 ・「谷川の様子」 ・「出来事」 ・「かのにの会話や様子」 ・かわせみ	■文章表現の工夫 ・擬声語 ・擬態語 ・比喻表現 ・情景描写 ・色 ・会話 ■イメージ図の作成	◇ア②（観察） ◇エ②（ワークシート2） ・物語の情景や言葉の使い方に興味をもっている。
	3	○「十二月」の幻灯を読み取る。 ・「谷川の様子」 ・「出来事」 ・「かのにの会話や様子」 ・やまなし	■文章表現の工夫 ・擬声語 ・擬態語 ・比喻表現 ・情景描写 ・色 ・会話 ■イメージ図の作成	◇ア③（観察） ◇エ③（ワークシート3） ・物語の情景や言葉の使い方に興味をもっている。
	4	○「五月」と「十二月」の幻灯を比べる。 ○題名「やまなし」について考える。	■反復表現の工夫 ■題意込められた思い ■二つの幻灯の比較	◇エ④（ワークシート4）

第 2 次 ②	5	○「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生い立ち、生き方、考え方を知り、感想を交流する。	■作者の生き方や考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉や行動 ・世の中の出来事 ・作品・農業への考え方 ・作品の書かれた時期 	◇ア④（観察） ◇エ⑤（ワークシート5） <ul style="list-style-type: none"> ・作者の生い立ちや生涯について積極的に知ろうとしている。
	6	○「やまなし」で賢治が伝えたかったメッセージを考える。 ●マイブックで賢治が伝えたかったメッセージを考える。	■作者の思いの読み取り <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となっている文 	◇エ⑥（ワークシート6、7） <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となっている文を見つけ、自分の考えを書くことができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">具体的な手立て②③④⑤</div>
	7	○「やまなし」で賢治が伝えたかったメッセージを交流し、自分の考えを深める。 ●マイブックで賢治が伝えたかったメッセージを交流し、自分の考えを深める。	■作品の構成 <ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの挿絵 ・新聞形式 	◇エ⑦（ワークシート6、7） <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となっている文を友達と交流し、自分の考えを深めることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">具体的な手立て②③④⑤</div>
	8	○賢治の考え方や理想ふまえ「賢治新聞」を完成させる。	■新聞の書き方 <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵 ・賢治の考え方・理想 	◇ア⑤（観察） ◇エ⑧（新聞の型） <ul style="list-style-type: none"> ・賢治の考え方や理想をとらえることができる。
第 3 次	9	○賢治の思いや願い、その生き方について自分考えをまとめ、友達と交流する。	■交流の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となっている文 ・感想の伝え方 ・友達の考えとの共通点や相違点 ・根拠となっている事柄 ■他作品との比較	◇ア⑥（観察） ◇エ⑨（ワークシート） <ul style="list-style-type: none"> ・これらの作品を書いた作者の生き方・考え方についての自分なりの考えを発表する。 ・友達の意見を聞き、自分の考えを深める。

9 本時の学習指導（7 / 9時）

（1）目標

「賢治新聞」を作るため、自分がとらえた賢治の生き方や理想の根拠となる部分を友達と交流し、自分の考えを深めよう。

（2）評価規準

エ 読む能力
（ 作者の生き方や理想がわかる箇所に気づくことができる。

(3) 展開

○学習活動	■学習内容	・指導上の留意点 ◇評価	時 間
1 本時の学習課題を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">単元の目標：マイブックを読み「賢治の世界展」を開こう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">本時の目標：作品から考える作者の考え方・生き方、理想を友達と交流し、自分の考えを深めよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題をみんなで読み、本時の活動を意識させる。 ・本時の内容が、ゴールのどの部分に当たるのかを提示し、意欲をもたせる。 ・始めから交流しやすいグループ形態で学習を行う。 	3
2 教科書教材について、賢治の考え方や理想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ■根拠と自分の考えの関連 ■小グループ交流 ■交流の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流のやり方を説明する。 ・該当する箇所にサイドラインを引かせ、前時までに自分の考えをまとめておく。 ・根拠となる部分を伝えられるようにする。 ・グループは同じマイブックを選択した者同士で行う。 ・クライマックスや出来事に注目させる。 ・良いと思ったことはメモさせる。 	5
3 友達の意見を踏まえ、賢治の考え方や理想をワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ■まとめ方 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に書いた自分の考えと友達の考えをふまえて書くようにする。 ・メモを参考にさせる。 	17
5 マイブックについて、賢治の考え方や理想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ■根拠と自分の考えの関連 ■小グループ交流 ■交流の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書教材と同じ型のワークシートを使用し、児童が取り組みやすいようにする。 ・該当する箇所にサイドラインを引かせ、前時までに自分の考えをまとめておく。 ・根拠となる部分を伝えられるようにする。 ・同じマイブックを選択した者でグループを組ませる。 ・クライマックスや出来事に注目させる。 ・良いと思ったことはメモさせる。 	5

6 友達の意見を踏まえ、賢治の考え方や理想をワークシートに書く。	■まとめ方	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に書いた自分の考えと友達の考えをふまえて書くようにする。 ・メモを参考にさせる。 ・難しい場合は、同じグループで話し合っても良いことを伝える。 ・数人に発表させ、自分の意見との共通点や相違点を比べて聞くようにする。 	10
<p>◇評価場面 〈評価規準〉エ⑦ 〈評価方法〉ワークシート6, 7、観察 〈個に応じた手立て〉 Aの児童（根拠も明確にして書くことができる） →作品に一部を引用し、より根拠を明確にした文にできるよう見直させる。 Cの児童（考えの深まりが見られない。） →サイドラインを引いた場所を振り返らせる。</p>			
7 発表する。	■聞き方	<ul style="list-style-type: none"> ・他作品に込められた考え方や思いを知るため、お互いの考えを聞き合う。 	4
8 次時の活動のめあてを確認する。	■次時の活動の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・次時では、賢治の考え方・理想を文章にまとめることを伝える。 	1

9 板書計画

「やまなし」 宮沢賢治

単元のめあて
 宮沢賢治の作品を読み 「賢治の世界展」を開こう。

今日のめあて 作品から考える作者の考え方・生き方、理想を友達と交流し、自分の考えを深めよう。の中から、賢治の生き方や理想。

やまなし

- ・いいこともあれば、いやなこともある。
- ・突然、思いもよらない出来事が起こる場合もある。
- ・人生山あり谷あり

マイブック

- セロ弾きのゴーシュ
- 雪わたり
- 注文の多い料理店
- カイロ团长
- 雨ニ千負ケズ
- グスコップドリりの伝記
- よだかの星

友達の考え

- ・同じところ
- ・違うところ
- ・納得できた
- ・共感した

マイブック 賢治の世界展を開こう！

やまなご」

六年組 氏名

めあて 五月の幻灯から谷川の様子を読み取ろう。

① 三冊の鑑賞し、五月の幻灯をまずおよめよう。

★谷川の鑑賞 さまざまな鑑賞)

★五月の鑑賞し、読み取ろう。

★谷川の話を鑑賞し

★田来事 色々な来事)

② 五月の幻灯から五月の鑑賞し、およめよう。

世界

マインツク 賢治の世界展を開こう！

やまなこ」三

六年組 氏名

めあて 十二月の幻灯から谷川の様子を読み取ろう。

③ 三冊の鑑賞し、十一月の幻灯を再読しよう。

★谷川の鑑賞メモを共有しよう。

★十一月の鑑賞し、感想を共有しよう。

★かたの語を鑑賞し

★田来事 にかか来たかたの

④ 十一月の幻灯から、より深く読み取ろう。

世界

マイブック 賢治の世界展「を開こう！」

やまなし「四

六年組 氏名

めめ

二の幻燈を氏名。

★この作品の題名を「なごん」にしよう。種田先生にしよう。

マイブック 賢治の世界展を開こう！

やまなし」五

六年組 氏名

めあて

作品への思いを知るために、作者 宮沢賢治」の生き方や考え方を知ろう。

<p>いつ</p> <p>一八九六年</p> <p>中学に入学した年</p> <p>盛岡高等農林高校に入学</p> <p>農学校の先生になる(二十五才)</p>	<p>賢治の行動 出来事)</p> <p>・岩手県の花巻に、質店の長男として生まれる。(津波・洪水・地震などの災害が多かった年)</p> <p>・自然災害のために農作物がとれず、次の年も洪水)↓必死に考え、最新の農業技術を学ぶことを決心する。</p> <p>・成績は優秀↓しかし、学者の道に進まない。</p> <p>・『人間になれ』</p> <p>・やさしさを人々に育ててもらいたい↓たくさんの詩や童話を書いた。</p> <p>物語の舞台は、</p> <p>・人間がみんな人間らしい生き方ができる社会が理想</p> <p>・人間も動物も植物も、</p> <p>ような世界が夢</p> <p>な世の中</p> <p>・理想が受け入れられない</p> <p>・出版が断られる</p> <p>・批評も出る</p> <p>◎詩集の出版をやめる。</p> <p>・農学校をやめる</p> <p>・『羅須地人協会』を作る</p> <p>・二年ほどで閉じる</p>	<p>賢治の考え方や作品</p> <p>・農民たちのために一生をささげたい。</p> <p>・苦しい農作業の中に、楽しさを見つける。</p> <p>・工夫することに、喜びを見つける。</p> <p>・未来に希望をもつ。</p> <p>・『風の又三郎』</p> <p>・『ダスコブドリの伝説』</p> <p>・『セロ弾きのゴーシュ』</p> <p>・『やまなし』</p>
<p>病氣とたたかう</p> <p>三十才</p> <p>一九三三年(昭和八年)</p> <p>九月二十一日死亡</p>		

マイブック 賢治の世界展を開こう！

やまなし「六

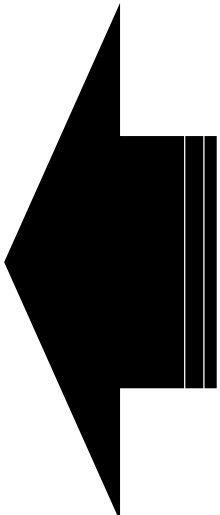
六年組 氏名

めあて

やまなし「六」から、賢治の生き方や理想が分かる部分を見つけて、友達と交流しよう。

『やまなし』

★本文の書き抜き



★私が考える 賢治の生き方や考え方、理想は何だろう。

友達の考えをメモしよう。

★友達の見聞を聞いた後 賢治の生き方や考え方、理想は何だろう。

マイブック 賢治の世界展「を開こう！」

やまなし「七」

六年組 氏名

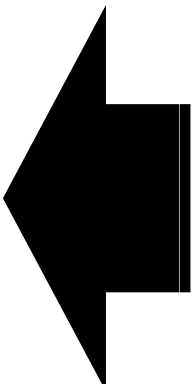
めめて マイブックから、賢治の生き方や理想が分かる部分を見つけ、友達と交流しよう。

マイブック 『

』

★本文の書き抜き

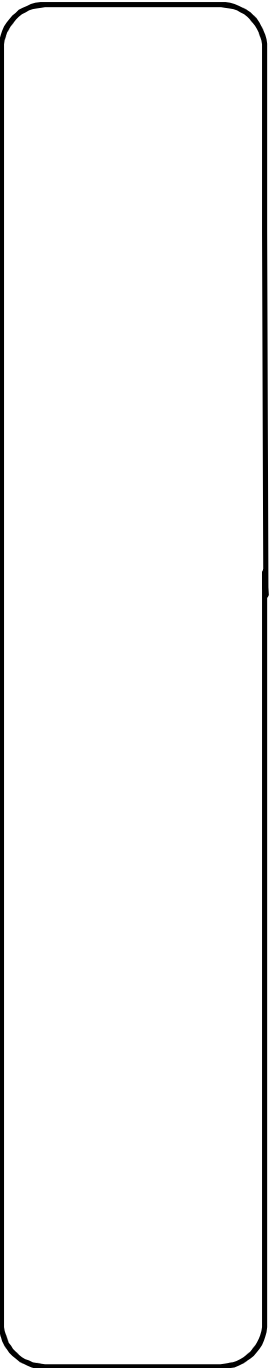
★賢治の生き方や理想



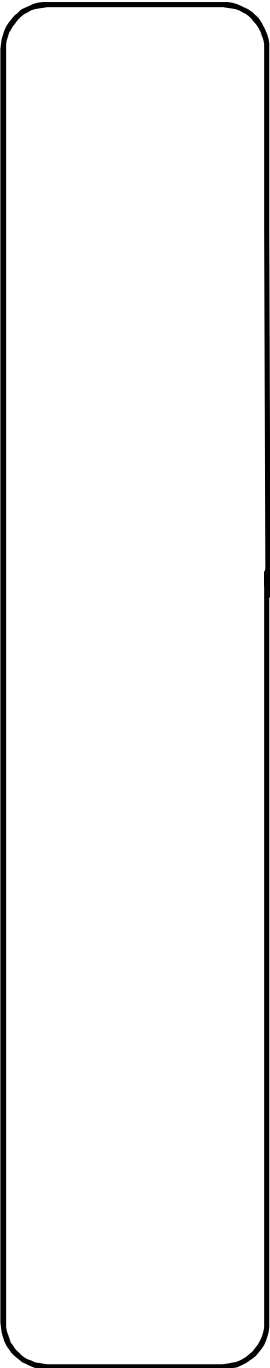
友達の考えをメモしよう。

友達の考えをメモしよう。

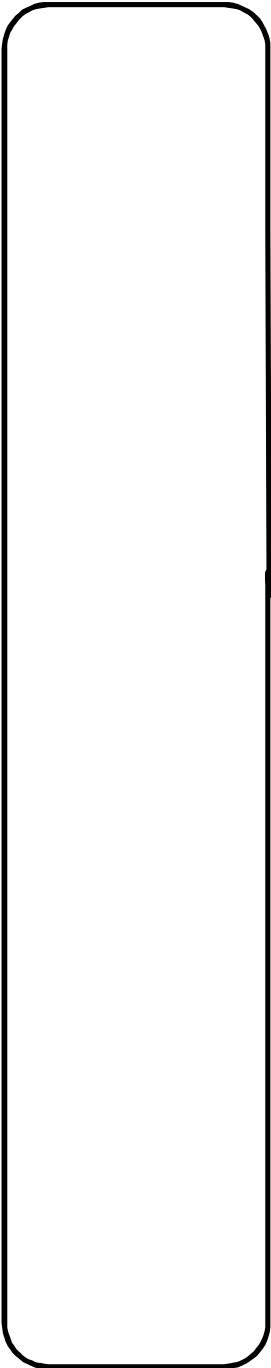
★友達の見聞を聞いた後 賢治の生き方や理想



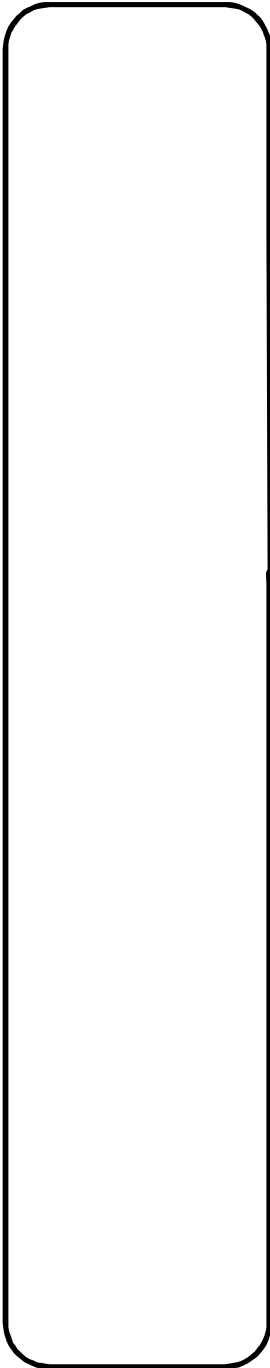
★賢治の生き方や考え方、理想↓賢治が作品に込めた想いは何なのだろう。



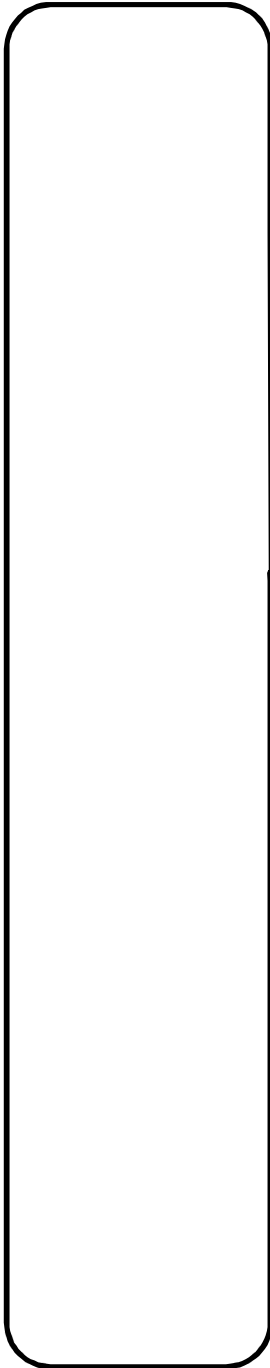
★賢治の生き方や考え方、理想↓賢治が作品に込めた想いは何なのだろう。



★賢治の生き方や考え方、理想↓賢治が作品に込めた想いは何なのだろう。



★賢治の生き方や考え方、理想↓賢治が作品に込めた想いは何なのだろう。




★賢治の生き方や考え方、理想↓賢治が作品に込めた想いは何なのだろう。

マイブックのイメージ図

作品から読み取れる
賢治の生き方・理想はズバリ……

マイブック



学習を終えた感想



Large empty rounded rectangular area for writing.

名前 六年
組
番

マイブック



マイブックのイメージ図

作品から読み取れる
賢治の生き方・理想はズバリ……

名前 六年
組
番



学習を終えた感想

高学年ブロック

指導者 新座市立大和田小学校

校長 児玉 裕子 先生

授業者 本授業 6年2組 中谷 千秋 教諭

「やまなし」

「イーハトーブの夢」

プレ授業 5年1組 見世 瑛子 教諭

「大造じいさんとガン」

第6学年2組 国語科学習指導案

平成27年10月28日(火) 第5校時

6年2組教室 (在籍児童数 40名)

指導者 教諭 中谷 千秋

1 単元名 作品の世界をより深く読み味わう—賢治の世界展—

教材名 「やまなし」(光村図書6年)

- ・中心学習材 「やまなし」(光村図書 6年)
- ・補助教材 「イーハトーブの夢」(光村図書 6年)

宮沢賢治が書いた作品

2 身に付けさせたい力

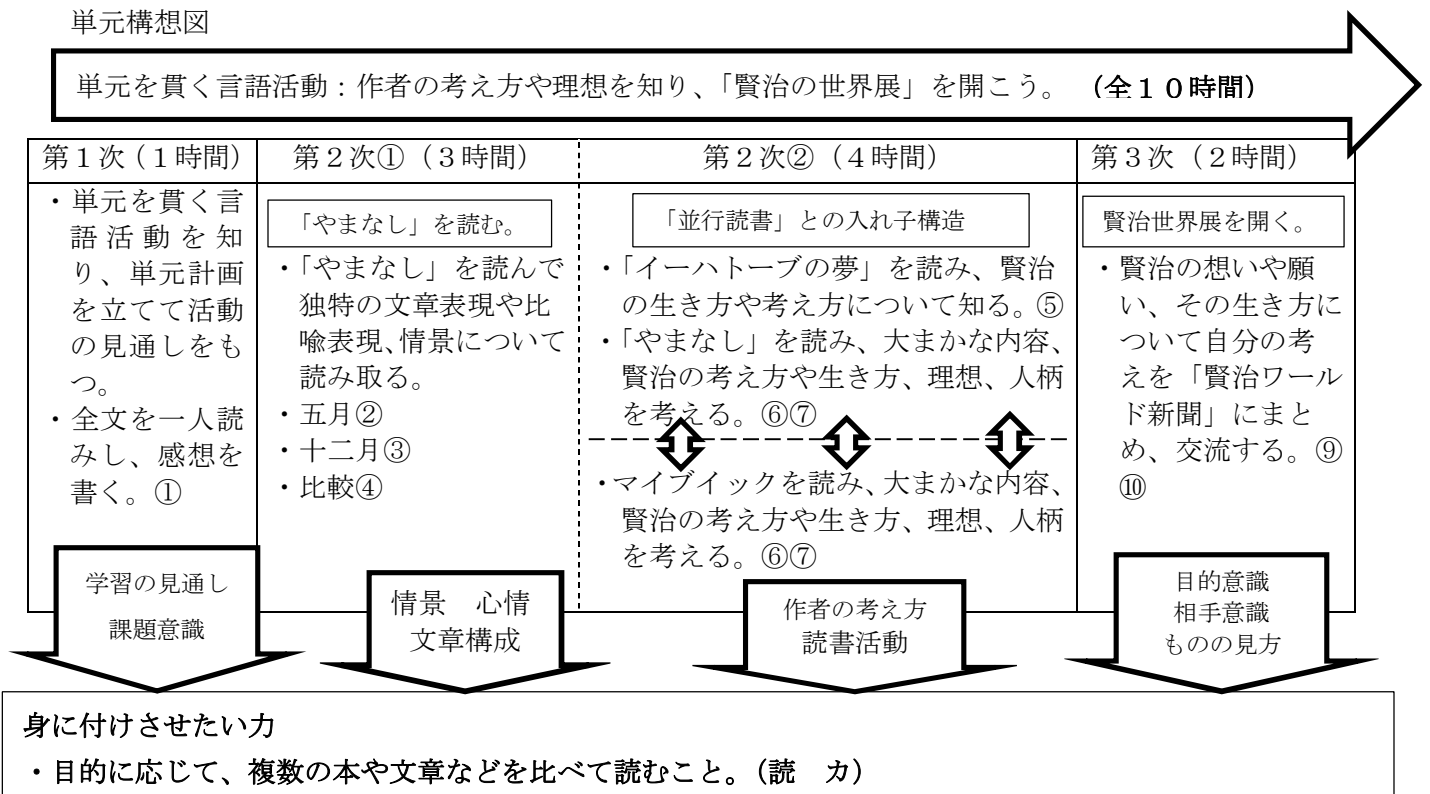
- ・目的に応じ、複数の本や文章を選んで比べて読むこと。(読 力)

3 上記のために選択した単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として「宮沢賢治の作品を読み『賢治の世界展』を開こう」を位置付けた。ここで位置付ける世界展とは、各自が読んだ宮沢賢治作品について、自分なりの解釈を用紙にまとめ交流会を行う活動である。単なる感想文とは異なり、作者特有の文章表現や構成、言葉の使い方を、作者の伝記と重ねて読み解くことを意識して進めていきたい。

そこで、重要となるものが本単元で取り上げる補助教材「イーハトーブの夢」である。これは、宮沢賢治のものの見方や感じ方、作品世界の原風景を知るための参考になる。作者の伝記的事実を知ること、その生き方に触れ、作者の感じ方や考え方を想像しやすくなる。「やまなし」の他に、自分が選んだ賢治の他作を読み、「賢治の作品展」を開く。作者の想いを捉えたり、比べて読んだりする力を身につけ、自分の考えをまとめるのにふさわしい言語活動であると考えた。

単元構想図



4 単元について

(1) 児童について

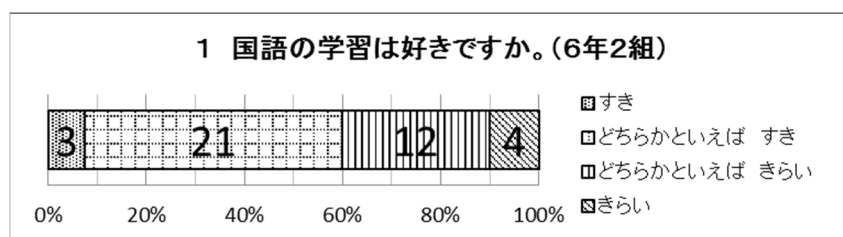
児童は、「C読むこと」の領域において、これまでに物語教材文「カレーライス」「森へ」を学習した。「カレーライス」では、登場人物の視点から、心情とその変化を共感的に読んだり、読者である自分の視点から叙述に即して登場人物について考えたりすることができた。「森へ」では、効果的な表現から様子を想像し、筆者の視点に立って心の動きを共感的にとらえたり、相手や薦めたい点を明確に意識したりして、並行読書していた自分の薦める本についての文章を書くことができた。

児童の多くは読書が好きで、たくさんの本を読もうと朝読書や週に一度のはなまるタイム（読書）の取り組みに力を入れている。しかしながら、児童が手に取る図書の種類や内容に偏りが見られ、中には読書自体に抵抗感をもっている児童も少なからずいる。読み取る力には個人差があり、全員に読解力がついているとは言えない。

○国語科におけるアンケート結果

以下のアンケート結果より、国語を「きれい・どちらかというときらい」と感じている児童が、クラスの4割を占めていることが分かった。また、その理由として4割（16人）の中の半数以上が「書くことがきれい」を理由にあげていた。読書は好きだが、「書くこと」に関して、苦手意識をもっている児童が少なくない。

すき	3
どちらかといえば すき	21
どちらかといえば きらい	12
きらい	4
合計	40



(2) 教材について

本単元は、学習指導要領「B 読むこと」の(1)目標の(3)

目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

内容①指導事項の(1)

カ 目的に応じて、複数の本や文章を選んで比べて読むこと。

を受けて設定されている。

(3) 指導について

本単元を貫く言語活動として「作者の考え方や理想を知り、「賢治の世界展」を開こう。」を位置づけた。賢治の世界観を理解するためには、内容の読み取りだけではなくその人生観や生き方も知る必要がある。そこで、第1次では、単元を貫く言語活動について、最終的にどのような活動を行うのかしっかりと見通しをもたせたい。第2次①では教材文「やまなし」を読むことを通して、独特の文章表現や比喻表現、情景の工夫について読み取らせることで、優れた叙述について自分の考えをまとめることができるようにする。また、副教材文「イーハトーブの夢」を読むことで、作者の生き方や人生が作品に大きな影響を与えているということに気づかせたい。第2次②では、「やま

なし」と児童自らが選んだ宮沢作品において、作者の考え方、理想、人柄を考えさせる。この時に、作者の生い立ちや時代背景も考慮しながら考えるようにする。(入れ子構造)第3次では、お互いの作品を紹介し合うことで、完成したものを「賢治の世界展」として掲示し、作品を書いた賢治の生き方・考え方についての友達の見方や考え方に触れることで、それぞれの見方に広がりをもたせたい。色々な見方・感じ方があるということに気づかせ、対比させてよむことの面白さを気づかせたい。

5 研究テーマおよびテーマとの関わり

(1) 研究テーマ

「心ゆたかで笑顔あふれる新開っこを目指して」
～生き生きと学び合う 国語科の授業の展開～

(2) 研究仮説

言語活動を通して、自分の力で読み取る活動を重視して取り組むことで、自分の力で読み取り、自分の考えを説明したり、表現したりできる子を育てることができるであろう。

(3) 仮説に沿った手立て

具体的な手立て①

完成品の提示

教師が初めに「宮沢賢治の世界展」で掲示する作品を児童に提示することで見通しをもてるようにする。

具体的な手立て②

授業形態の工夫

第2次では、同じマイブックを選んだ者同士がグループになるよう組み、学習を深めることができるようにする。

具体的な手立て③

ワークシートの工夫

第2次②で使用する、本教材とマイブックの2枚のワークシートを同じ型のものを使用する。児童が並行読書した作品についてまとめる際に作業をスムーズに進めることができるようにする。

具体的な手立て④

並行読書

並行読書の際、作者の考え、理想、人柄を感じられる部分にサイドラインで目印をつけるようにする。

具体的な手立て⑤

話合いの工夫

第2次②では、2～3人程度の小グループ話合いを取り入れる。友達の考えを聞くことで、自分の考えをより深めさせる。

6 単元の目標

(1) 物語の情景や言葉の使い方に興味をもち、作者の考え方や生き方を知らうとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

(2) 複数の本や文章を比べて読み、作者のものの見方や考え方、理想について自分の考えを深めることができる。

【読むこと】

(3) 作品の中で使われている表現を味わい語感や言葉の使い方に気づくことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

7 単元の評価規準と学習に即した評価規準

	ア 国語への 関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての 知識・理解・技能
単 元 の 評 価 規 準	物語の情景や言葉の使い方に興味をもち、作者の考え方や生き方を知らうとしている。	複数の本や文章を比べて読み、作者のものの見方や考え方、理想について自分の考えを深めている。	作品の中で使われている表現を味わい語感や言葉の使い方に気づいている。
学 習 に 即 し た 評 価 規 準	<p>① 宮沢賢治作品に興味をもち、一つの作品を選び、読もうとしている。</p> <p>② 「賢治新聞」に興味をもち、見通しをもって取り組もうとしている。</p> <p>③ 物語の情景や言葉の使い方に興味をもっている。</p> <p>④ 作者の生い立ちに興味をもち、賢治について知らうとしている。</p> <p>⑤ 「賢治新聞」にまとめようとしている。</p> <p>⑥ 作者の思いや願い、その生き方について、自分考えを友達と交流しようとしている。</p>	<p>① 物語の大まかな内容（構成）をとらえ、登場人物を確認することができる。</p> <p>② 五月の場面の情景や優れた文章表現に気づき、あらすじを理解することができる。</p> <p>③ 十二月の場面の情景や優れた文章表現に気づき、あらすじを理解することができる。</p> <p>④ 二つの幻灯を比較し、共通点や相違点をとらえている。</p> <p>⑤ 「イーハトーブの夢」を読み、作者の生い立ちや生涯について年表や補助資料から読み取ることができる。</p> <p>⑥ 作者の生き方や理想がわかる箇所に気づき、自分の意見を書くことができる。</p> <p>⑦ 作者の生き方や理想を交流し、自分の意見を深めることができる。</p> <p>⑧ 作者の生き方や理想を「賢治新聞」にまとめることができる。</p> <p>⑨ 作者のものの見方や考え方について友達と交流し、自分の考えをさらに深める。</p>	<p>① 比喩などの文章表現がもたらす効果について気付いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比喩 ・ 文章構成 ・ 色彩表現 ・ 情景描写 ・ 擬声語 ・ 事態語

8 指導計画（全9時間）

次	時	学習活動 ○教科書教材◎自分で選んで教材	■学習内容	◇評価規準（評価法） ・指導上の留意点
第0次		○事前に宮沢賢治作品に触れさせる。	■読書カード	◇ア①（観察） ・事前に宮沢賢治作品に触れ・せ、興味・関心をもたせ環境作りをしておく。
第1次	1	○単元を貫く言語活動を知り、学習計画を立てて学習の見通しをもつ。 ○「やまなし」の全文を聞き、感想を書く。	■完成品のモデル提示 ■あらすじの把握 ■文章構成	◇ア②（観察） ◇エ①（ワークシート1） ・完成品のモデルを提示し、学習活動の流れをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">具体的な手立て①</div>
第2次 ①	2	○「五月」の幻灯を読み取る。 ・「谷川の様子」 ・「出来事」 ・「かのにの会話や様子」 ・かわせみ	■文章表現の工夫 ・擬声語 ・擬態語 ・比喻表現 ・情景描写 ・色 ・会話 ■イメージ図の作成	◇ア②（観察） ◇エ②（ワークシート2） ・物語の情景や言葉の使い方に興味をもっている。
	3	○「十二月」の幻灯を読み取る。 ・「谷川の様子」 ・「出来事」 ・「かのにの会話や様子」 ・やまなし	■文章表現の工夫 ・擬声語 ・擬態語 ・比喻表現 ・情景描写 ・色 ・会話 ■イメージ図の作成	◇ア③（観察） ◇エ③（ワークシート3） ・物語の情景や言葉の使い方に興味をもっている。
	4	○「五月」と「十二月」の幻灯を比べる。 ○題名「やまなし」について考える。	■反復表現の工夫 ■題意込められた思い ■二つの幻灯の比較	◇エ④（ワークシート4）

第 2 次 ②	5	○「イーハトーヴの夢」を読み、賢治の生い立ち、生き方、考え方を知り、感想を交流する。	■作者の生き方や考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉や行動 ・世の中の出来事 ・作品・農業への考え方 ・作品の書かれた時期 	◇ア④（観察） ◇エ⑤（ワークシート5） <ul style="list-style-type: none"> ・作者の生い立ちや生涯について積極的に知ろうとしている。
	6	○「やまなし」で賢治が伝えなかったメッセージを考える。 ●マイブックで賢治が伝えなかったメッセージを考える。	■作者の思いの読み取り <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となっている文 	◇エ⑥（ワークシート6、7） <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となっている文を見つけ、自分の考えを書くことができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">具体的な手立て②③④⑤</div>
	7	○「やまなし」で賢治が伝えなかったメッセージを交流し、自分の考えを深める。 ●マイブックで賢治が伝えなかったメッセージを交流し、自分の考えを深める。	■作品の構成 <ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの挿絵 ・新聞形式 	◇エ⑦（ワークシート6、7） <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となっている文を友達と交流し、自分の考えを深めることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">具体的な手立て②③④⑤</div>
	8	○賢治の考え方や理想ふまえ「賢治新聞」を完成させる。	■新聞の書き方 <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵 ・賢治の考え方・理想 	◇ア⑤（観察） ◇エ⑧（新聞の型） <ul style="list-style-type: none"> ・賢治の考え方や理想をとらえることができる。
第 3 次	9	○賢治の思いや願い、その生き方について自分考えをまとめ、友達と交流する。	■交流の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となっている文 ・感想の伝え方 ・友達の考えとの共通点や相違点 ・根拠となっている事柄 ■他作品との比較	◇ア⑥（観察） ◇エ⑨（ワークシート） <ul style="list-style-type: none"> ・これらの作品を書いた作者の生き方・考え方についての自分なりの考えを発表する。 ・友達の意見を聞き、自分の考えを深める。

9 本時の学習指導（7 / 9時）

（1）目標

「賢治新聞」を作るため、自分がとらえた賢治の生き方や理想の根拠となる部分を友達と交流し、自分の考えを深めよう。

（2）評価規準

エ 読む能力
（ 作者の生き方や理想がわかる箇所に気づくことができる。

(3) 展開

○学習活動	■学習内容	・指導上の留意点 ◇評価	時間
1 本時の学習課題を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">単元の目標：マイブックを読み「賢治の世界展」を開こう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">本時の目標：作品から考える作者の考え方・生き方、理想を友達と交流し、自分の考えを深めよう。</div>		3
2 教科書教材について、賢治の考え方や理想を交流する。	■根拠と自分の考えの関連 ■小グループ交流 ■交流の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題をみんなで読み、本時の活動を意識させる。 ・本時の内容が、ゴールのどの部分に当たるのかを提示し、意欲をもたせる。 ・始めから交流しやすいグループ形態で学習を行う。 	5
3 友達の意見を踏まえ、賢治の考え方や理想をワークシートに書く。	■まとめ方	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に書いた自分の考えと友達の考えをふまえて書くようにする。 ・メモを参考にさせる。 	17
5 マイブックについて、賢治の考え方や理想を交流する。	■根拠と自分の考えの関連 ■小グループ交流 ■交流の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書教材と同じ型のワークシートを使用し、児童が取り組みやすいようにする。 ・該当する箇所にサイドラインを引かせ、前時までに自分の考えをまとめておく。 ・根拠となる部分を伝えられるようにする。 ・同じマイブックを選択した者でグループを組ませる。 ・クライマックスや出来事に注目させる。 ・良いと思ったことはメモさせる。 	5

6 友達の意見を踏まえ、賢治の考え方や理想をワークシートに書く。	■まとめ方	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に書いた自分の考えと友達の考えをふまえて書くようにする。 ・メモを参考にさせる。 ・難しい場合は、同じグループで話し合っても良いことを伝える。 ・数人に発表させ、自分の意見との共通点や相違点を比べて聞くようにする。 	10
<p>◇評価場面 〈評価規準〉エ⑦ 〈評価方法〉ワークシート6, 7、観察 〈個に応じた手立て〉 Aの児童（根拠も明確にして書くことができる） →作品に一部を引用し、より根拠を明確にした文にできるよう見直させる。 Cの児童（考えの深まりが見られない。） →サイドラインを引いた場所を振り返らせる。</p>			
7 発表する。	■聞き方	<ul style="list-style-type: none"> ・他作品に込められた考え方や思いを知るため、お互いの考えを聞き合う。 	4
8 次時の活動のめあてを確認する。	■次時の活動の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・次時では、賢治の考え方・理想を文章にまとめることを伝える。 	1

9 板書計画

「やまなし」 宮沢賢治

単元のめあて
 宮沢賢治の作品を読み 「賢治の世界展」を開こう。

今日のめあて 作品から考える作者の考え方・生き方、理想を友達と交流し、自分の考えを深めよう。の中から、賢治の生き方や理想。

やまなし

- ・いいこともあれば、いやなこともある。
- ・突然、思いもよらない出来事が起こる場合もある。
- ・人生山あり谷あり

マイブック

- セロ弾きのゴーシュ
- 雪わたり
- 注文の多い料理店
- カイロ团长
- 雨ニ千負ケズ
- グスコーブドリの伝記
- よだかの星

友達の考え

- ・同じところ
- ・違うところ
- ・納得できた
- ・共感した

「まなこ」

六年組 氏名

めあて 話の内容を読み取りながら話そう

① 「まなこ」を誰と誰と誰と読んでみたいと思いますか。

② 絵まなこ「だてておはなすの」の絵まなこが読むところの物語を分けて書く。

--

③ あなたが気に入ったお話について書く。

--

マイブック 賢治の世界展を開こう！

やまなご」

六年組 氏名

めあて

五月の幻灯から谷川の様子を読み取ろう。

① 三冊の鑑賞し、五月の幻灯をまずおよめよう。

★谷川の鑑賞 さまざまな鑑賞)

★五月の鑑賞し、読みあひだそう。

★谷川の話を鑑賞しよう

★田来事 色々な来事(の)

② 五月の幻灯から五月の鑑賞しあひだそう。

世界

マインツク 賢治の世界展を開こう！

やまなごっ！

六年組 氏名

めあて 十二月の幻灯から谷川の様子を読み取ろう。

③ 三冊の鑑を1冊ずつ、十一冊の鑑を冊よめよう。

★谷川の鑑を冊よめよう。

★十一冊の鑑を冊よめよう。

★かたの語を鑑

★田来事 にかひ来たかの

④ 十一冊の鑑をわしよめ鑑つたよう。

世界

マイブック 賢治の世界展「を開こう！」

やまなし「四

六年組 氏名

めいめ

二の幻燈を氏名。

★この作品の題名を「なごん」にしよう。種田先生によう。

マイブック 賢治の世界展を開こう！

やまなし」五

六年組 氏名

めあて

作品への思いを知るために、作者 宮沢賢治」の生き方や考え方を知ろう。

<p>いつ</p> <p>一八九六年</p> <p>中学に入学した年</p> <p>盛岡高等農林高校に入学</p> <p>農学校の先生になる(二十五才)</p>	<p>賢治の行動 出来事)</p> <p>・岩手県の花巻に、質店の長男として生まれる。(津波・洪水・地震などの災害が多かった年)</p> <p>・自然災害のために農作物がとれず、次の年も洪水)↓必死に考え、最新の農業技術を学ぶことを決心する。</p> <p>・成績は優秀↓しかし、学者の道に進まない。</p> <p>・『人間になれ』</p> <p>・やさしさを人々に育ててもらいたい↓たくさんの詩や童話を書いた。</p> <p>物語の舞台は、</p> <p>・人間がみんな人間らしい生き方ができる社会が理想</p> <p>・人間も動物も植物も、</p> <p>ような世界が夢</p> <p>な世の中</p> <p>・理想が受け入れられない</p> <p>・出版が断られる</p> <p>・批評も出る</p> <p>◎詩集の出版をやめる。</p> <p>・農学校をやめる</p> <p>・『羅須地人協会』を作る</p> <p>・二年ほどで閉じる</p>	<p>賢治の考え方や作品</p> <p>・農民たちのために一生をささげたい。</p> <p>・苦しい農作業の中に、楽しさを見つける。</p> <p>・工夫することに、喜びを見つける。</p> <p>・未来に希望をもつ。</p> <p>・『風の又三郎』</p> <p>・『ダスコブドリの伝説』</p> <p>・『セロ弾きのゴーシュ』</p> <p>・『やまなし』</p>
<p>病气とたたかう</p> <p>三十才</p> <p>一九三三年(昭和八年)</p> <p>九月二十一日死亡</p>		

マイブック 賢治の世界展を開こう！

やまなし「六

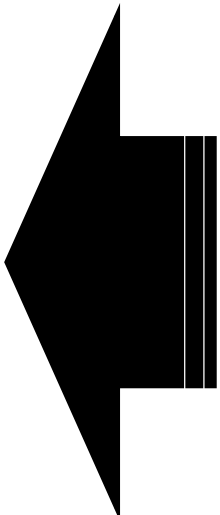
六年組 氏名

めあて

やまなし「六」から、賢治の生き方や理想が分かる部分を見つけて、友達と交流しよう。

『やまなし』

★本文の書き抜き



★私が考える 賢治の生き方や考え方、理想は何だろう。

友達の考えをメモしよう。

★友達の見聞を聞いた後 賢治の生き方や考え方、理想は何だろう。

マイブック 賢治の世界展を開こう！

やまなし「七」

六年組 氏名

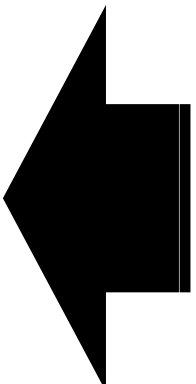
めめて マイブックから、賢治の生き方や理想が分かる部分を見つけ、友達と交流しよう。

マイブック』

』

★本文の書き抜き

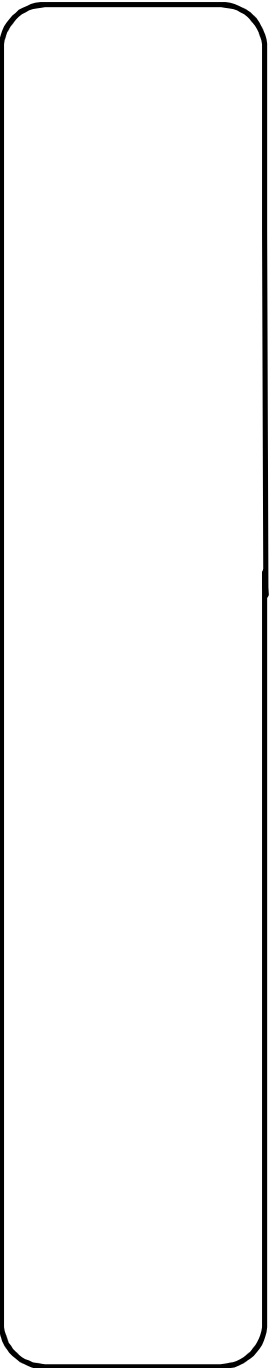
★賢治の生き方や理想



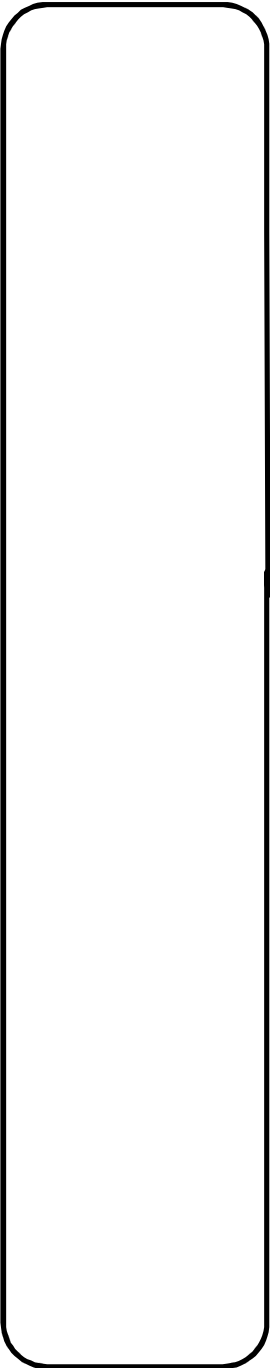
友達のことをメモしよう。

友達のことをメモしよう。

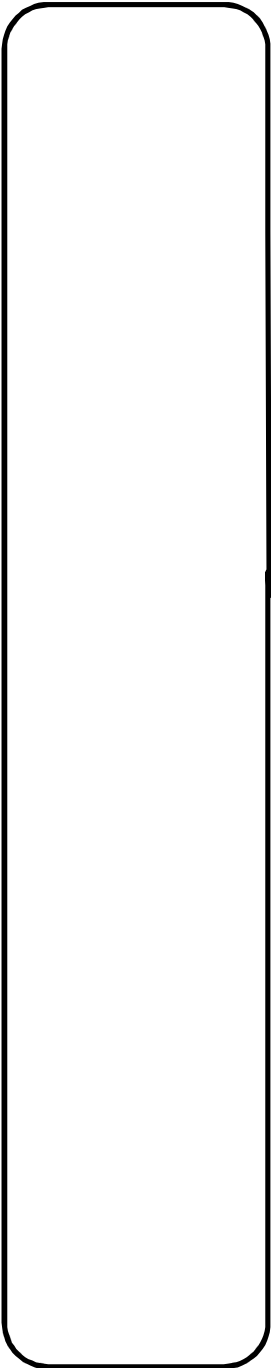
★友達のことを聞いた後 賢治の生き方や理想



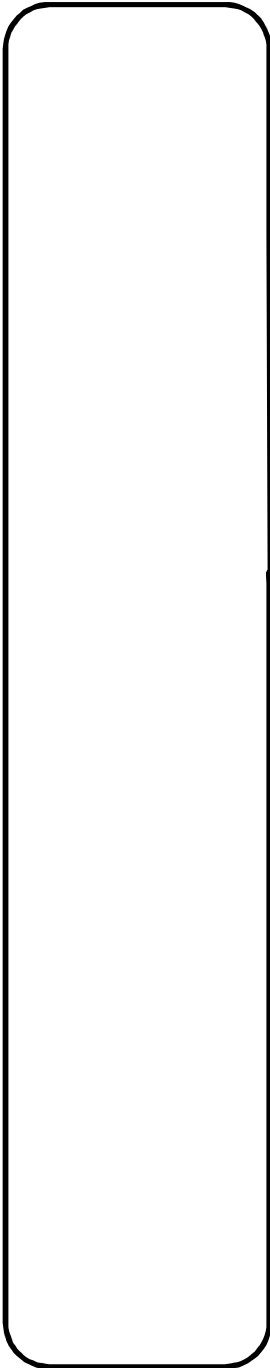
★賢治の生き方や考え方、理想↓賢治が作品に込めた想いは何なのだろう。



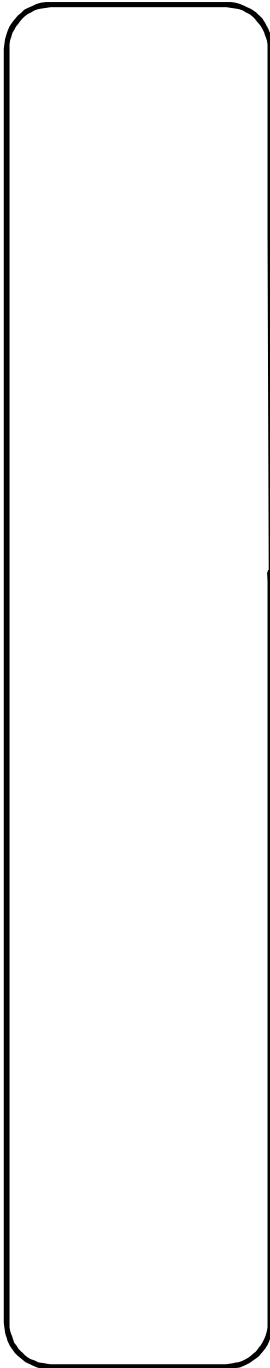
★賢治の生き方や考え方、理想↓賢治が作品に込めた想いは何なのだろう。



★賢治の生き方や考え方、理想↓賢治が作品に込めた想いは何なのだろう。



★賢治の生き方や考え方、理想↓賢治が作品に込めた想いは何なのだろう。




★賢治の生き方や考え方、理想↓賢治が作品に込めた想いは何なのだろう。

マイブックのイメージ図

作品から読み取れる
賢治の生き方・理想はズバリ……

マイブック



学習を終えた感想



Large empty rounded rectangular area for writing.

名前 六年
組
番

マイブック



マイブックのイメージ図

作品から読み取れる
賢治の生き方・理想はズバリ……

名前 六年
組
番



学習を終えた感想

【授業者反省】

1. 児童からの意見がまとめられなかった。
異なる意見がたくさん出て、どれもよい場合はどうしたらよいのか。
2. グループ内で意見が同じことがあった。
交流の方法に工夫が必要と感じた。「深める」ために、できることは何か。
3. 前グループへの指導ができていたか。
多くの作品があって、見きれなかった。
4. 時間がのびてしまった。
無理に発表させなくてもよかったと感じる。
5. 評価について

【参観者質疑応答・感想】

- グループ内で同じ意見お解きは、根拠に着目してもよいかもしれない。
また、交流するチームと一緒に考えるチームは分けた方がよい。
- 「イーハトーブの夢」の重要性。
- 並行読書のよい点は、「ここにもこう書いてある」という児童の気づきがうまれているところ。事前に話し合っておくことが大切。
並行読書をするときには、課題意識を持たせる。また、ほんの数については、教師が確認できる量にしばっておいた方がよい。
- 朗読と世界展、どちらの方が、読み取りに適しているのだろう。「世界展」という言葉の意味を周知する必要があるのではないか。
- 補助教材に入るタイミングで迷った。1時間の中で組み立てる、音読のさせ方などの工夫も。今回はマイブック。

【指導講評】

- ◎授業の最初で、「深める」の意味をおさえていた点が素晴らしい。
- ◎難しい内容を小学生にあったほどほどのところに組み立てている。
(「やまなし」の造語の由来を考えていくと、難しすぎる。)

子どもが、すごい！作りたい！と思うもの。
教師が楽しく作る。

1. 単元を貫く言語活動→9時間後のゴールが最初から決まっていること。
↓
モデリングは掲示しておく。
はじめに入れ子構造ありきなわけではない。わくわく感を大切にしてほしい。

「書き抜く」対象を明確にすること、ワークシート欄の大きさの工夫。

2. 評価について
目的の中身を決めていく。(学習に即した評価規準)
長くなってしまうと、わかりやすく。
本時の場合だと、「『賢治の生き方、理想』は本文のどこからどう現れている」ということが、拘留

されるべきだった。→何を交流するか、はっきりさせる。

ねらいを明らかにして、練ること。評価ができないときはねらいが甘い。

3. グループ構成

内容によって変える

例：人によって感じ方にちがいがあることを気づかせたい。→同じ本同士

例：なぜその本を選んだか。理由を交流させたい。→違う本同士

【成果と課題】

○ゴールを明確にすることで、意欲をもって授業に取り組む児童が多くみられた。

○話し合い、意見交流の時間があることで、お互いの考えを知ることができて、児童同士で参考にできた。

△話し合い、意見交流でお互いに得た情報や意見をその後の授業で、十分に生かせよう工夫をしていく必要がある。

△時間の使い方を工夫して、45分の中で充実させる内容に仕上げていくことを目標としたい。

第5学年1組 国語科学習指導案

平成27年10月19日(月) 第5校時

5年1組 教室 (在籍児童数39名)

指導者 教諭 見世 瑛子

1 単元名 おすすめします！自然界に生きる動物の物語

教材名

- ・中心学習材 「大造じいさんとガン」(光村図書 5年下)
- ・補助教材 動物を描いた作品

2 身に付けさせたい力

- ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。(読 エ)

3 上記のために選択した単元を貫く言語活動とその特徴

言語活動例「エ 本を読んで推薦の文章を書くこと」を具体化した「自分が選んだ関連するテーマの本のおもしろさを、本の推薦リーフレットで友達に伝える。」という言語活動を位置付ける。

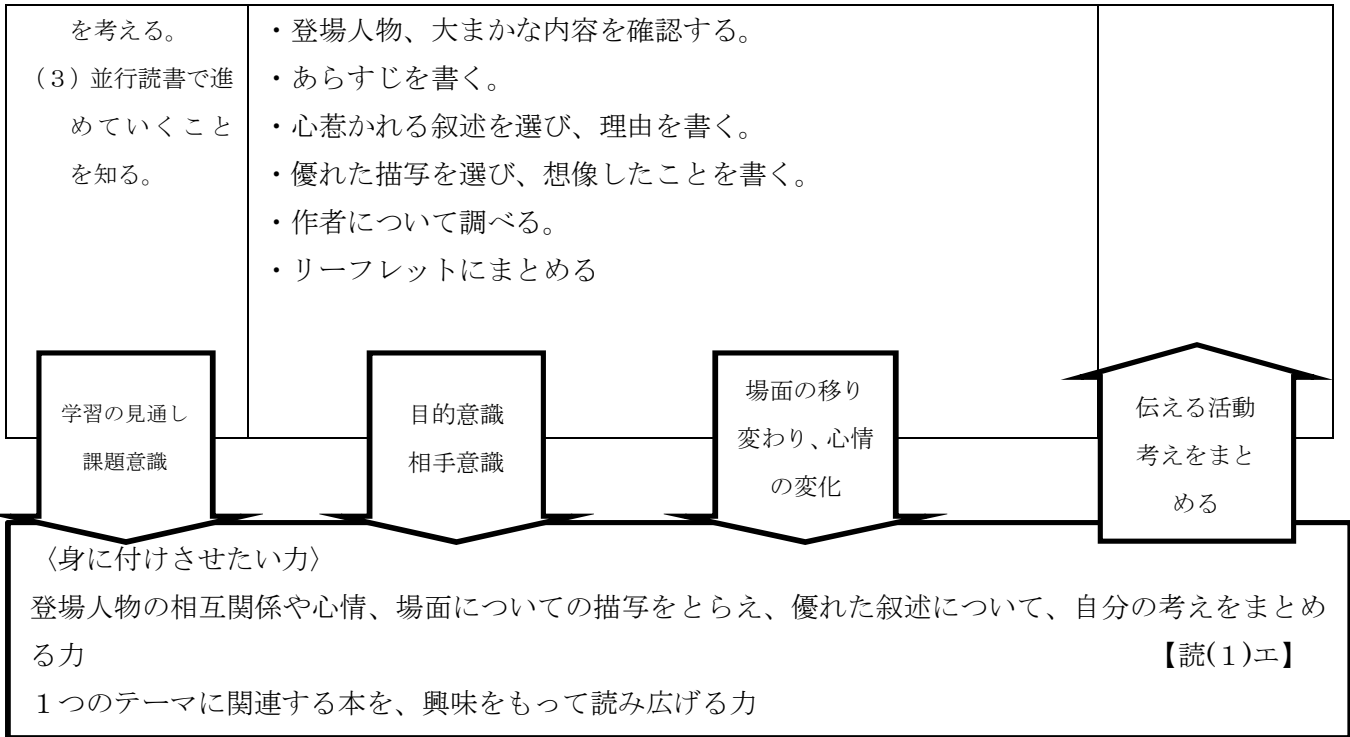
ここで取り上げる「リーフレット」による本の推薦は、本教材のテーマに関連がある本を自分で選び、題名・作者名・出版社名、登場人物紹介、あらすじ、心惹かれた叙述、心惹かれた理由、おすすめのメッセージなどを位置付け、自分なりに表現し、友達に紹介するものである。登場人物の相互関係や心情の変化をとらえ、情景描写にも着目して、心惹かれた理由を示していくため、本単元のねらいを実現するのにふさわしい言語活動であるとする。

この活動を支えるために、指導計画の第2次では「大造じいさんとガン」で学習したことを、自分で選んだ並行読書で書き進めていく。そのために入れ子構造で学習を進め、児童が学んだことを生かして読み進めていく力をつける。そのために、ワークシートの工夫が必要となる。

単元構造図

単元を貫く言語活動：「おすすめします！自然界に生きる動物の物語」(全7時間)

第1次(1時間)	第2次(5時間)	第3次(1時間)
1 ブックトーク やモデル提示 をもとに、単元 の見通しをも つ。 (1) 教師のブック トークを聞く。 (2) リーフレット を紹介し、項目	2 「大造じいさんとガン」を読み、リーフレットの項目を書く ・登場人物、大まかな内容を確認する。 ・あらすじを書く。 ・心惹かれる叙述を選び、理由を書く。 ・優れた描写を選び、想像したことを書く。 ・作者について調べる。 ・リーフレットにまとめる ----- 入 れ 子 構 造 ----- 関連のある本を自分で選んで、リーフレットの項目を書く	・リーフレット をもとに、選 んだ本を紹介 しあう。

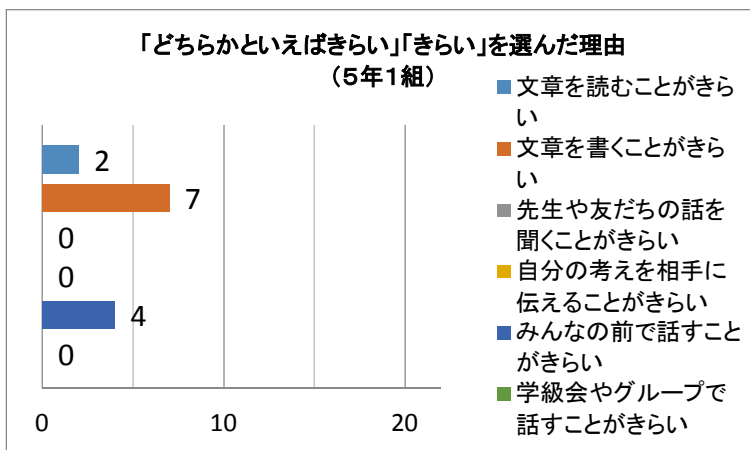
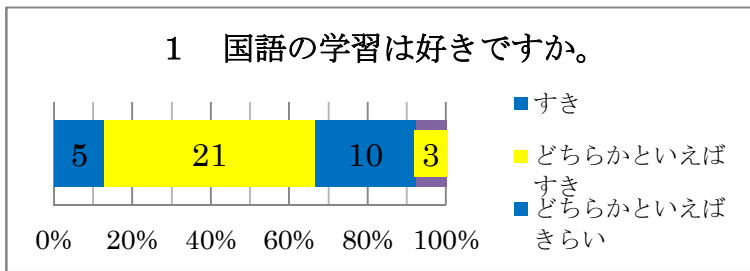


4 単元について

(1) 児童について

6月に行った「千年の釘にいどむ」では、読み取りを通して一番伝えたい文章を考え、帯作りをする学習をした。7月には「次への一步」で、報告書を作成、9月には「明日をつくるわたしたち」で、提案書をグループで作成した。読み手にわかりやすく伝える書き方、まとめ方を学習し、書くことができたが、伝えたいことを内容から読み取り、書き表す力まではついていない。

国語に対する本学級の児童の調査をみると、書くことを苦手として国語を好きになれない児童が多



いことが分かる。また話すことを苦手とする児童も次いで多くみられた。本単元での「リーフレット作り」とその交流で、一人一人の読み取りを重点に置いて、自ら構成し、作り上げていくという手順をふんで仕上げていくことで、児童が「書くこと」において新しい感覚で取り組み、興味をもって学習を進められるのではないかと考える。

本単元の「大造じいさんとガン」では、黙読を繰り返していく中で、性格を読み取ったり、情景を想像したりしながら、心惹かれる叙述が見つけられるようにし、理由を考えられるようなワークシートを使用する。

(2) 教材について

本単元は、学習指導要領「C 読むこと」の(1)目標の(3)

目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

内容①指導事項の(1)

エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

を受けて設定されている。

(3) 指導について

本単元を貫く言語活動として「自分が選んだ関連するテーマの本のおもしろさを、本の推薦リーフレットで友達に伝える」を位置付けた。一斉指導と個人作業を中心に、班ごとの意見交換も取り入れながら授業を進める。また、ワークシートには毎時ふりかえりの枠を設け、自分の取り組みについて振り返られるようにした。

具体的な手立て①

ブックトークで興味を引き、リーフレットの見本を見せることで意欲付けをする

具体的な手立て②

最初の項目を全体で進めることで、以後の学習の見通しを立たせる

サイドラインの引き方を統一する

具体的な手立て③

リーフレットと同じ様式のワークシートにすることで、並行読書のリーフレットづくりもスムーズに行える

具体的な手立て④

手がとまってしまう児童には、「大造じいさんとガン」のリーフレットづくりでもよいことを伝える

5 単元の目標

- (1) 人物の心情や場面の様子を表す表現を味わいながら読もうとしている。 【関心・意欲・態度】
- (2) 自分のお気に入りの作品の魅力をもとめるために、複数の本を読んだり比べたりして読んでいる。

(1)カ【読むこと】

「情景」の意味について理解している。(1)エ

登場人物の心情や動き、情景を表す表現をとらえ、自分の考えをまとめている。(1)エ

友達の発表を聞いて、感想を伝え合っている。(1)オ

- (3) 文には、感動、感嘆などを表す文など、いろいろな性質あることを理解して、リーフレットを書いている。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

6 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への 関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語についての 知識・理解・技能
単 元 の 評 価 規 準	・人物の心情や場面の様子を表す表現を味わいながら読もうとしている。	・心情や場面の様子が伝わるように音読している。(1)ア ・「情景」の意味について理解している。(1)エ ・登場人物の心情や動き、情景を表す表現を捉え、自分の考えをまとめている。(1)エ ・友達の発表を聞いて、感想を伝え合っている。(1)オ	・言葉や表現に気をつけて様子を想像している。 (1)イ(カ)
学 習 活 動 に 即 し た 評 価 規 準	①人物の心情や場面の様子を表す表現を味わいながら読もうとしている。 ②リーフレットに書く内容を進んで考えている。	①複数の本を読み、おすすめしたい本を選んでいる。 ②リーフレットに書くことを理解し、物語の魅力伝える文章を書いている。	①文の性質を理解し、リーフレットを書いている。

7 指導計画 (全7時間)

	学習活動 ○教科書教材 ◎自分で選んだ教材	学習内容	評価規準・評価方法
1	ブックトークを聞き、動物をテーマにした本のリーフレットを作る計画を立てる。(第1次) ○学習の見通しをもつ。	■見通し ■リーフレットの項目 ・登場人物 ・あらすじ など ■難語句の確認	【関】動物をテーマにした本を読み、リーフレットにしてまとめることに興味、関心をもっている。 (発言、ワークシート) 具体的手立て①

2 本時	教材文と、自分で選んだ本のリーフレットの項目を書く。(第2次) ○「大造じいさんとガン」を読み、登場人物や登場人物の性格をとらえ、ワークシートに書く。	■登場人物と登場人物の性格 ■考えの交流	【読】 叙述を基に性格をつかみながら読んでいる。 (発言、教材文、ワークシート) 具体的手立て② 具体的手立て③ 具体的手立て④
	◎自分で選んだ物語の登場人物や登場人物の性格をとらえ、ふせんでメモをはさむ	■リーフレットづくり ・登場人物 ・登場人物の性格	
3	○「大造じいさんとガン」を読み、あらすじをまとめてワークシートに書く。	■あらすじ	【読】 言葉や行動に着目し、物語の内容の大体をつかみ、残雪との関係をおさえながら読んでいる。 (発言、教材文、ワークシート)
	◎自分で選んだ物語のあらすじをワークシートに書く。	■ワークシート ・あらすじ	
4 5	○「大造じいさんとガン」を読み、心惹かれる文を見つけて、その理由を考える。	■内面に描かれた心情の読み取り ■情景描写からの心情の読み取り ■考えの交流	【読】 自分なりの根拠をもって、好きな場面や、心惹かれる文を選んでいる。 (発言、教材文、ワークシート)
	◎自分で選んだ物語を読み、心惹かれる文を見つけて、その理由を考え、ふせんでメモをはさむ	■ふせん ・心惹かれる文	
6	◎リーフレットを仕上げる ふせんでメモをしてきたことをリーフレットに書き込んでいく。	■リーフレットの完成	【言】 自分が選んだ本の、表現の工夫に気づいている。 (リーフレット)
7	おすすめの本をリーフレットで伝える。(第3次)	■交流の仕方 ・伝え方と聞き方	【関】 リーフレットを通して、おすすめする理由や、よさを伝え合おうとしている。 (発言、ノート)
	◎本のリーフレットを使って交流し、自分の考えを広げたり、深めたりする。		

8 本時の学習指導 (2 / 7時)

(1) 目標

登場人物や登場人物の性格を読み取り、ワークシートに書くことができる。

(2) 評価規準

叙述を基に、登場人物についてとらえ、考えをまとめている。【読むこと】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1 前時の振り返りをする。	○リーフレットの書き方	○前時に紹介したリーフレットを見せ、あらすじやおすすめの文を書くことで、リーフレットが完成することを確認する。	3分
おすすめします！自然界に生きる動物の物語			
2 「大造じいさんとガン」の「1の場面」の一斉読みをする。	○一斉読み	○毎時、場面ごとに一斉読みをし、本時の学習に入る心の準備をする。	5分
3 本時の学習課題をつかむ。	○本時の課題の確認	○本時の学習を学習計画表を見ながら確認し、学習に対する意欲を高めたり、見通しをもたせたりする。	2分
登場人物や登場人物の性格を読み取り、まとめよう。			
4 「大造じいさんとガン」を読み、登場人物や登場人物の性格をとらえる。	○登場人物や登場人物の性格の把握 ・サイドライン ・ワークシートへの記入	○既に音読などで繰り返し読んでいるので、各自で読みながら、登場人物の性格を読み取る。 ○場面の様子や風景を描いた表現からも人物の性格を想像することができることを伝え、物語の読みを深めることができるようにする。 ○サイドラインは鉛筆で引くようにさせる。「性格」は二重線、次時以降の「あらすじ」は線、「心惹かれる文」は波線で線を引き区別させる。 ○児童の発言から、「性格」は一文で書くこと、最後は、それぞれ「かりゅうど」と「がんの頭領」で終わるようにするなど、登場人物の性格の仕方を統一する。	10分

<p>5 登場人物や性格について交流する。</p>	<p>○登場人物や性格についての交流</p>	<p>◇登場人物や登場人物の性格を、叙述を基にワークシートに書いている。(読む)</p> <p>具体的手立て② 具体的手立て③</p> <p>○まず班で交流し、さらにクラス全体でも交流し、物語への読みを深める。</p> <p>○性格とそう思った理由を発表させる。</p> <p>○友達の発表を聞きながら、必要であれば、自分のワークシートに付け加えたり書き直したりさせる。</p>	<p>10分</p>
<p>6 自分で選んだ物語の登場人物や登場人物の性格をとらえ、ふせんでメモをする</p>	<p>○自分で選んだ物語の登場人物や登場人物の性格の読み取り</p>	<p>○「大造じいさんとガン」を読んでワークシートに記入したことを生かしてリーフレットに書くことを確認する。</p> <p>○登場人物は、2～3人に絞るようにする。</p> <p>○ふせんに性格が読み取れる部分をメモし、はさんでいく。</p> <p>○レイアウトを考えながら、リーフレットに登場人物と登場人物の性格を書かせる。</p> <p>○なかなか書き始められない児童には、リーフレットの見本を参考にさせ、同じようなレイアウトでも良いことを伝える。</p> <p>具体的手立て④</p>	<p>12分</p>
<p>7 本時の振り返りをし、学習計画表に評価を記入する。</p> <p>8 次時の見通しをもつ。</p>	<p>○本時の振り返り</p> <p>○次時の学習の進め方</p>	<p>○3段階での評価を学習計画表に記入させる。</p> <p>○次時は、あらすじをまとめてワークシートに書くことを伝える。</p>	<p>3分</p>

(4) 板書計画

大造じいさんとガン

棕 鳩十

リーフレット
とは

リーフレットの項目

めあて 登場人物や登場人物の性格を読み取り、まとめよう

登場人物

大造じいさん

ガン (頭領)

性格

あらずじ

心惹かれた文

性格

な狩人

なガン (頭領)

登場人物

登場人物	
性格	
登場人物	
性格	
理由	

(のりづけ)

大造じいさんとガン

作者
椋 鳩十

5年1組

リーフレット式ワークシート
「わたしはこう読む！」

5年1組 番

名前 _____

登場人物

登場人物	
性格	
登場人物	
性格	

(のりづけ)

作者

5年1組 番

名前 _____

講演会記録

- ① 4月27日 佐久間先生
「新開小学校の校内研修について①」
- ② 6月22日 佐久間先生
「新開小学校の校内研修について②」
- ③ 7月21日 児玉先生
「言語活動を充実させるための
国語科授業の改善のポイント」
- ④ 2月22日 富山先生
「アクティブ・ラーニングと
国語科の指導法」

はじめに・・・なぜ国語の研修をする学校が多いのか。

「言語活動の充実」の根本が国語にあたる考える。

新開小学校の学力の実態をつかみ、分析をしていくこと。

全国学力状況調査より・・・無回答率の高い問題が多いことがわかる。

正答率が10%以上低いものがみられる。

→回答率の分析を知り、問題の繰り返しによりスキルアップを図る。

→継続的に課題となっているのかもしれない

→授業を改善していく

年間計画をつかみ、見通しを立てる

→系統表を見て知っておくこと

例 正答率があがっている問題

→5年生の「想像カスイッチを入れよう」が重要となる

→1～4年ではどの単元が重要？年間に1～2回しか重点としている教材がない

→1つの単元の重みを知る 本時のねらいと目標を明確に！

→単元を貫く言語活動を設定し、構成していく

入れ子構造

ABワンセット方式 等

ねらいと、単元を貫く言語活動がわかる単元名を設定する。

例 「なぜ？たんぼぼのちえ
クイズを作ろう」

Q. 読解力をどうとらえていけばいいのか？

A. 今までの国語では輪切り型が多かったが、これからの国語では単元を貫いていく、即ち全体を読み。そこから必要なものを選んでいくという方法がある。ワークシートやヒントカードなどを利用し、C→Bへの手立て、単元の後には確実にあげておけるようにしておく。

【国語の授業の組み立て】

重点的に取り組む単元を学年で決定する。



配列表で位置づけを確認する。



ねらいをしぼり、その目標を達成したときに、児童がどのような姿となるかをイメージする。



その姿を実現させるために、どんな力を身に付けさせたらよいのか、具体的に
する。

例 第5学年 「本の帯」をつくってお気に入りの物語を推薦する

「大造じいさんとガン」＋「おすすめする本」を並行して学習を進める。

場面分けはしないが、「お気に入りの一文」をみつける。

Q. どのように見つけるのか？

A. 「大事だな。」と思うところをひろっていく。
交流をする。（付箋など）

Q. 課題解決型の言語活動を設定し……。となったときに振り返りはどうしたらよい？

A. 第一時で「この単元では〇〇な力がつくのだよ。」と投げかける。
スモールステップで今日ねらいとしたことが、できたか、できなかったか。

Q. ワークシートと、ノートの使いわけはどうしたらよい？

A. 形に慣れていない場合には、ワークシートに頼ってもよい。

第6回校内研修 全体研修

日時 平成27年7月21日 13:30～

次第

1 あいさつ・講師紹介（校長）

講師 新座市立大和田小学校 校長 児玉 裕子氏

2 講演・演習

「言語活動を充実させるための国語科授業の改善ポイント」

I なぜ単元を貫く言語活動なのか

○ 水戸部修治氏の資料から

① 何のために「読む」のかを明確にする。

② 「読み」を表現できるように育てる。

↓

単元構成そのものを、導入の段階から何のために読むのかを明確にし、
表現を目的とする指導過程として工夫する必要がある。

II 文学教材における言語活動の充実とは、具体的にどう授業を組み立てることか？

○ 教材 「一つの花」4年生を例として。

(1) 旧学習指導要領での扱い（平成20年まで）について

(2) 平成20年版学習指導要領 昨年度までの教科書の扱いについて
（平成20年～26年）

(3) 現行の教科書での扱いについて

(4) 「一つの花」の単元構成と時間配分について

(5) 「一つの花」を、読解のための読解ではなく、目的をもって読解する。

III ちょっと試してみましよう

○ 教材 「白いぼうし」「山ねこ、おことわり」3年生を例として

場面＝小説はわかれていない。授業をする側の部分での分け方でもある。
段落に分ける必要があるのか？

すっきりいかない。授業をする側の分け方になる。

クライマックスは何なのか？

主人公は？ 物語の中で変容するそこがクライマックスである。

※主人公の気持ちが変わるところ！

→ ここが大事だと1年生から気づかせること
高学年では教えていってよい。

3 質疑応答

Q1 主教材の読みが浅くならないか？

A) ・入れ子構造は、低位の子には混乱する。

・ A B 式

Aを2時間 「白いぼうし」

Bを1時間 「山ねこおことわり」

○ 読みが深まる △ 混乱する

Q2 時間がかかるが？

A) しばることが必要である。

4 謝辞（教頭）

平成 28 年 2 月 22 日 15:00～ 図書室
校内研修 記録 (富山哲也 教授 講演)

●講演内容

*富山先生の経歴と交えて(学校研究とは、学力とは)

- 元々13年間中学校の国語教師をしていた。指導主事3年半、その後文科省で教科調査官。現在は十文字学園大学。
- 文科省にいる間に、平成20年度版(現行)の学習指導要領改訂を行った。
- 教科調査官は、すべての教科に存在する。細かい林業や商業などにも存在する。算数・数学は、小学校担当中学校担当高校担当がいる。国語にも小中高存在する。
- いまの国語教育で狙っていることは「考えたことをちゃんと伝えあおう」。これは、ほかの教科でも同じく行われている。しかし、ほかの教科は考えたことを伝えあうことによって、知識技能を高めたり、ものの見方を高めたりするのが目的。ところが国語は、「考えたことを伝える」ことが目標であり、目的となる。言語活動やアクティブラーニングの根本は、「考えたことを伝えられる力をつける授業を展開していきましょう」ということ。
- 今の子どもたちには、考えたことを伝えあう力が弱いと思う。校内研究は、目の前の子どもの課題を解決が第一。ほかの学校の実態はさておき、新開小の子どもたちが課題をクリアしてより力がつけばよいと思う。実践研究であり理論研究ではないので、目の前の子どもたちが変わっていくことを目指して研究が進められればよいのではないかと思う。
- 学力学力というが、全国学力状況調査は全国平均が基準で優劣をつけることになってしまっていることが課題。
- 現代の問題として・・・
少子化が進んでいる。秋田県は毎年10を超える学校が減っている。社会全体の活力が低下していくことにつながる。グローバル化。国際競争の激化。規範意識の低下。
- 今の時代にはなにが起こるかわからない。正解が用意されていない時代。いまの子どもたちは、このような時代を10年後には担っていくことになる。このような時代を生き抜くには、どのような力が必要か。子どもたちが自ら進んで、考える力。考えるだけではだめで、それを言葉にする力。その考えを交わしあって議論する力。これが、いまの時代の学力なのではないか。

*新学習指導要領とアクティブラーニング

- 次期の学習指導要領での重点は、「論点整理」。
 - 1 何を知っていてなにができるか＝個別の知識・技能。・・・都道府県の名前や場所を知っている
 - 2 知っていること・できることをどう使うか＝思考力・表現力・判断力・・・新幹線で北海道と東京がつながると、どんないいことが起きるか、経済効果はどうなるか。
 - 3 どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか
- 授業が下手な先生は、問いかけた後にすぐ答えを言ってしまう。そうすると、子どもたちは自分で考えようとせず、言われたことを写して丸暗記しようとする。それは知識・技能の詰め込み。2の力がつかない。今の時代の学力では、2の力もないと不十分。

- ・ただ今までは、中学校や高校、小学校の一部の先生では、入試に関係ないからと言われていた。そこで、その入試を変えようという動きになった。センター試験を改める。マークシートのみだけでなく、記述問題を設定し、思考力・表現力・判断力をみるようにする。知識・技能の教え込みの授業ではとうていだめ。
- ・アクティブラーニングとは。全国学テの学校質問紙36と児童質問紙40がそれにあたる。
- ・もともとアクティブラーニングとは、大学で行われていた授業の改善のために向けて言われていた。小学校・小学生にはもともとアクティブラーニングは取り入れられている。今現在において、授業の中で子どもたちが一生懸命考えて伝えあおうとしているのであれば、これ以上にアクティブラーニングを取り入れようとしなくてもよい。口だけアクティブにしてもだめ。小学校はアクティブラーニングのアクティブに注意を向けるよりも、ラーニングになっているかをチェックするとよいのではないか。
- ・スライドp4 魅力的な課題の提示。いつもいつも子ども自身が課題を見付けなくてもよい。学習時間が限られているので、先生が提示することも併用する。
- ・自分の考えを発表・交流する機会があれば、必ずしもアクティブになっているというわけではない。

* アクティブラーニングと単元を貫く言語活動

- ・魅力的な課題の提示・・・魅力的な課題＝単元を貫く言語活動。子どもが、これだけたくさんの時間をかけて追求したいと思うものを設定する。それが単元を貫く言語活動。目の前の子どもたちが、リーフレット作りが楽しいと思うか？発表会がおもしろいか？思うものでなければならない。それができれば、課題解決的な学習になる。できれば既習事項を活用する学習にする。2年生以上は、既習事項を利用して新しい技能を獲得する流れになっている。
 - ・学習指導要領解説編p130～。この一覧表は平成20年度版に初めて掲載された。これで、小学校から中学校への学習のつながりが見やすくなっている。
 - ・学習指導要領の(1)は、指導事項＝つけたい力。文末に「～ができる」とつけるとわかりやすい。どんな言語活動をしてよいが、つけたい力をつけるための言語活動をしなければならない。(2)は付けたい力を付けるための手段。
 - ・中学校では、小学校で身につけた力を生かして伸ばしていくように指導する。
【読むこと】・・・音読、効果的な読み方、説明的な文章の解釈、文学的な文章の解釈、自分の考えの形成および交流、目的に応じた読書
 - ・今までは、内容理解(=わかった?)中心だった。これからは内容理解のみならず、自分はどう思う?ものの読み方を教える。そして、それを生かして別の本が読みたいという気持ちにさせる。
 - ・内容理解する。目的をもって読みたい。読んで自分なりの考えをもつ。自分の意見を交流する。読み方を知って、別の本も読みたい。
- このような力を付けるために、「単元を貫く言語活動」が開発された。単元全体を通して学習する。
- ・単元を貫く言語活動の問題点。イメージが沸かない。
- 具体的な授業のモデルを示した。その説明のために、A Bワンセット、入れ子構造という言葉ができた。

- ・いま、子どもたちに付けたい力は様々あるが、それを付けるための効果的な方法の一つが、単元を貫く言語活動。必ずやらなければならないというわけではない。ほかのやり方でもよい。
 - ・単元を貫く言語活動を取り入れる際の悩み・・・①時間がかかる。②教科書教材がわりと歯ごたえがあるので、言語活動まで易々とたどり着かない。
 - ・ただ、従来通りの、教師の発問によって進められる授業のみでは、今子どもに求められている力を付けるのには不足していることは明らかなので、新しいやり方を取り入れていくことは大いに価値があるのではないか。
 - ・校内研究のテーマ単元を貫く言語活動を使って～などと入れると、それが目的になってしまう。もうすこし視点を引いた方がよいと思う。
 - ・従来通りの授業は、まったく授業に参加しないで終わってしまう児童がいるのかも。言語活動をさせれば、いい意味で学習から逃れられない。今まで学習に消極的だった児童が、積極的に取り組むようになったという例はたくさんある。
 - ・話し合いが活発にならないときは？
- 話し合いには 4 種類ある。話し合わせるときは、先生もどの話し合いをさせたいのか、整理する必要がある。
- 1 考えを確かめる・・・ペアでわかってるはずのことを確かめさせる。
 - 2 考えを広げる（拡散的）・・・他人の意見を認める、自分との違いを聴くなど。
 - 3 考えをまとめる（収束的）・・・違うものはどちらかに絞る、にているものはまとめる。
 - 4 考えを出し合う（課題解決型）・・・ジグソー法（代表者なので、責任がある。）
- ・子どもたちが発表するときに、自分が書いたものを見せて発表させてほしい。これだけでも、話し合いは活性化する。

●質疑応答

- ・魅力的な課題設定、子どもたちに切実感をもたせるためのポイントは、
- 中学生や高校生には子どもたちの生活に結びつけると、切実感をもつ。ただ、小学生はまだ社会的にそこまで自立していないので、あまり切実にならない。身近にある課題を意識づけて、それに近いものを国語の授業の中でやってみないかと目標にみさせる。たとえば、本には帯が巻いてあるよね？あれをみて、読みたいと思ったり手に取ったりするよね？本屋さんには POP があるよね？6年間で読んだ本のベスト3を下級生に紹介しない？etc...
- ・話し合いの仕方、発表の仕方について。授業で気をつけることはあるか。
- 「思考ツール」をこどもに与えて、話し合いを活性化する。「ベン図」共通点と相違点を考えなさいという学習の際に利用する。付箋を使ってやると話し合いに活性化される。
- 本当の意味でのいい話し合いとは、シナリオ通りに進まない。言葉遣いも乱暴になるもの。身振り手振りがつく。話し合いの台本を作って渡すのは逆効果な場合も。真剣に話し合う姿が見られたときに、この話し合いが本当の意味でのいい話し合いと紹介することも大切。

富山先生講義「アクティブラーニングと国語科の指導法」

で使われた言葉の簡単な解説

①ビブリオバトル(の手順)

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

②アンソロジー

いろいろな詩人・作家の詩や文を、ある基準で選び集めた本。また、同一詩人・作家の選集。現在では詩に限らず、文学作品、音楽作品、絵画などの多彩なジャンルで、複数の作品を集めたものに対して広く使用される。

③ブックトーク

ブックトークとは、一定のテーマを立てて一定時間内に何冊かの本を複数の聞き手に紹介する行為。多くは、図書館、学校において子どもたちを聞き手の対象として図書館司書、学校の司書教諭、民間の図書ボランティアなどにより行われる。ブックトークの目的は「その本の内容を教えること」ではなく、「その本の面白さを伝えること」または「聞き手にその本を読んでみたいという気持ちを起させること」である。読み聞かせや朗読とは異なり、本を最初から順に読んでいくということはない。

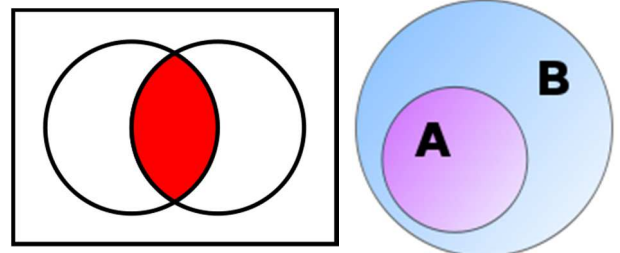
④POP

POP は、紙を広告媒体としてその上に商品名と価格、またはキャッチコピーや説明文、イラストだけを手描きしたものであり、数ある広告媒体の中でも単純なツールの一つである。しかし、POP は個性的な店の雰囲気を作り上げる力があり、POP 一つでその商品、ひいては店舗の売上を左右するとまで言われるほど、実に優れた力を持っている。



⑤ベン図

ベン図とは、複数の集合の関係や、集合の範囲を視覚的に図式化したものである。イギリスの数学者ジョン・ベンによって考え出された。



Web より